
営業三課／栗田満夫

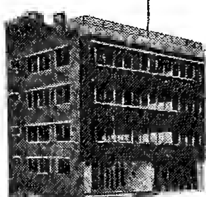
チヨダは印刷機材の合理化を推進する総合メーカーです。

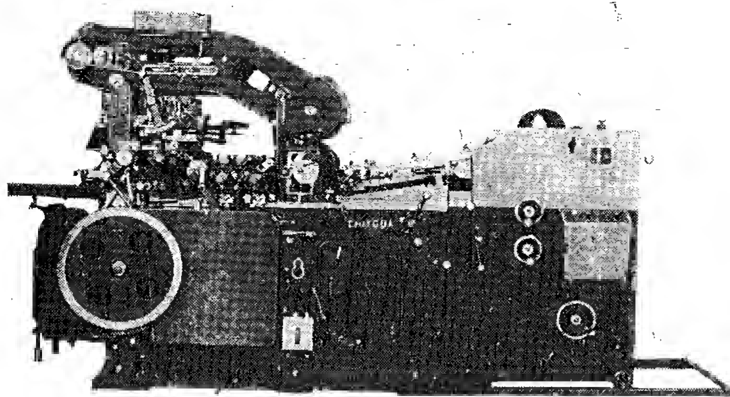
パーフェクトは夢の印刷機（全自動）です。超薄紙から厚紙まで、忙しい人手の足りない工場に大好評。


営業一課／庄司政雄

パーフェクトはたくさんの賞賛の言葉をいただきました。よい製品をつくる励みになります。


営業二課／打林行夫


本社新社屋

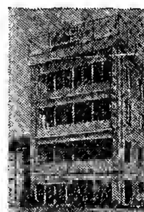


新製品 **パーフェクト** 全自動B四截凸版印刷機

8

千代田印刷機製造株式会社
千代田印刷材料製造株式会社

本　社　東京都千代田区神田猿楽町1－4　TEL 東京(292) 2011 (代) ～8
横浜支社　横浜市西区高島通り1－7　TEL神奈川(045) 44－6572・7358・7028
福岡支社　福岡市御供所町3番16号（聖福寺前）　TEL 福岡（28）3960・0153
立川工場　東京都昭島市東町1丁目1番地5号　TEL 立川(0425) 2－2470・4383
九州工場　佐賀県小城郡牛津町（牛津駅前）　TEL 牛津 72


横浜支社

私のことば

普及とレベルアップを

北海道協会会長
徳中康満



私共の協会はまだ歴史が浅く、昭和23年に、現役当時全日本で有名を馳せた、皆川繁夫氏（日体大）が函館に赴任して協会作りと選手養成に根を下し、会長の小坂幸一氏、理事長万代秀三氏等の援助と相俟って、急速の進歩を遂げ国体に於ける成績も、女子クラブチームで優勝一回、男子でクラブのサンダース、高校の函館工業が準優勝各一回と、輝やかしい歴史を残して、今春小坂、万代の両氏が勇退されました。

後任に推されて私がその衝に当ることになりましたので、言遅くして恐縮ですが、新顔として全国の諸賢へよろしく御指導の程をお願い致します。

公私多忙な日日に追われてる身ですが、会長を引き受けた理由の一つとして、指導陣の熱意と、選手の体当りで指導者に応える姿、日常節度ある態度等がその一つとして挙げられましょう。

地域が広く、指導陣の手薄な北海道で普及には思うに任せぬ困難を伴っておりますが、漸く道北、道東にも手が延び、大学も亦普及の兆しを見せて楽しみを多くしております。

今後私に課せられておる事は、普及に併せレベルの向上を計り、北国人の「土根性」を試合を通して見ていただく事が斯道各位にお応えする事と存じ、育成に微力ながらつくさせていただきます。

何分偏地ですので、刺戟と御協力を賜りますよう関係各位にお願い申上げます。

ハンドボール「第46号目次」

昭和42年9月号

表紙写真　第18回全日本高校選手権大会
花巻南高対名古屋女子商高

今月号に掲載された日独対抗関係の記事は各地の親善大会プログラムなどに御自由にお使い下さい。

ミュンヘンへの布石となるか

西独男女、8日に待望の来日

日本ハンドボール界待望の西ドイツ男女ナショナル・チームはいよいよ9月7日来日、9日東京での第1戦を皮切りに全国各地で男子13試合、女子11試合を行う。

すでに日本協会にはH・ザッツ団長以下役員4人、男子14、女子14選手のリストがとどけられ、世界ハンドボール界の最強国にふさわしい試合ぶりを内外から期待されている。

日本にヨーロッパのナショナルチームが来訪するのは31年の西ドイツ、35年のルーマニアについで3度目、7人制一本化後は初めてで特に女子は、球史上はじめて外国チームを迎えることになる。

ミュンヘン・オリンピックの開催国から、同大会をめざす日本ハンドボール界に最強チームが派遣されることは、これまでの日独ハンドボール界の結びつきをよりいっそう深めることになるだろう。

西ドイツ男・女ハンドボール選手団

			年令
役員	**4名**		
団長	Horst Satz	H・ザッツ	37
副団長	Brendes Hans	B・ハンス	36
監督	Helmut Torka	H・トルカ	56
助監督	Horst Coads	H・コルデス	37
男子チーム	**14名**		
G・K	Helmut Duell	H・デュエル	27
〃	Harald Kessemeier	H・ケッセマイヤー	27
F・P	Rolf Barthel	R・バーテル	28
〃	Manfred Gorges	M・ゴルゲス	36
〃	Eberhard Grunwald	E・グリュンバルト	23
〃	Manfred Guschl	M・グッシェル	24
〃	Alfred Hartwig	A・ハルトビッヒ	31
〃	Hillmer Jens	H・ジェンス	25
〃	Jens Ivers	J・イバース	24
〃	Wilhelms Klemme	W・クレム	28
〃	Manfred Mendach	M・メンダッハ	29
〃	Wilhelm Onnen	W・オーネン	29
〃	Gunter Pahl	G・パール	27
〃	Lother Torka	L・トルカ	25
女子チーム	**14名**		
G・K	Gisela Debald	G・デバルド	31
〃	Elke Heuer	E・ホイヤー	28
F・P	Ulla Becker	U・ベッカー	20
〃	Christa Bierkandt	C・ビールカンツ	23
〃	Heike Berbulla	H・バービュラ	21
〃	Inge Hewicker	I・ヘウィッカー	32
〃	Benate Kähler	B・ケラー	23
〃	Christa Köhler	C・ケーラー	29
〃	Christa Milter	C・ミルター	26
〃	Sigrid Müller	S・ミューラー	22
〃	Jutta Nentwig	J・ネントビッヒ	25
〃	Marin Pauly	M・ポーリイ	26
〃	Marlis Reuter	M・ロイター	28
〃	Barbel Tunn	B・ツン	22

日・独国際親善ハンドボール大会日程

9月7日（木） 18.45 羽田着 オランダ航空 867 便

男子対戦チーム

9月9日	(土)	16.40	東京体育館	全芝工大
11日	(月)	19.10	横浜文化体育館	全立教大
13日	(水)	19.00	岩手県営体育館	東日本選抜
14日	(木)	17.00	宮城県営スポーツセンター	全仙台
15日	(金)	19.00	東京体育館	大崎電気
16日	(土)	18.00	東京体育館	全中央大
17日	(日)	16.10	早稲田記念会堂	全早稲田
19日	(火)	18.30	広島県立体育館	菊松会
21日	(木)	18.30	京都市立体育館	全京大
23日	(土)	15.50	大阪府立体育会館	大阪イーグルス
24日	(日)	15.50	静岡県草薙体育館	全静岡
25日	(月)	18.00	駒沢屋内球技場	桜友会
27日	(水)	19.00	駒沢屋内球技場	全日本

女子対戦チーム

9月9日	(土)	15.35	東京体育館	大崎電気
11日	(月)	18.10	横浜文化体育館	三菱鉛筆
13日	(水)	18.00	岩手県営体育館	東日本選抜
15日	(金)	18.00	東京体育館	大崎電気
16日	(土)	16.00	東京体育館	東京重機
17日	(日)	16.00	愛知県立体育館	全愛知
19日	(火)	16.00	津市立体育館	田村紡
21日	(木)	16.00	熊本市水前寺体育館	大洋デパート
23日	(土)	14.50	大阪府立体育会館	全大阪
24日	(日)	14.50	静岡県草薙体育館	全静岡
27日	(水)	18.00	駒沢屋内球技場	全日本

9月29日（金） 13.30 羽田発 ルフトハンザ 647便

第一戦は全国中継

親善大会のテレビ放送は次のように内定している。

9月9日 NHK教育テレビ（全国中継）
対大崎電気（後半）
対芝浦工大

9月17日 TBSテレビ
対全早稲田

9月21日 ABCテレビ
対全京大

このほか若干ふえるみこみがある。

〃オリンピックへの第一歩に〃

日独対抗を前に　荒川理事長と一問一答

ドイツ男女の来日による日独対抗は、ミュンヘンオリンピック決定後希望に満ちた日本ハンドボール界にとって最初に迎えた意義ある行事といえよう。

シリーズ開幕を前に荒川清美理事長に一問一答してみた。

――荒川氏が理事長になって最初の大事業ということになるわけですが――。

理事長　今回の計画は前理事長時代にある程度のおぜんだてが出来ていたもので、われわれとしてそれを受けついだだけですが、ともかく国際的な進出という大目標を達成させるためにも成功のうちに進めたいと考えています

――西ドイツを来日チームに選んだ理由は特にあるのですか

理事長　日本のハンドボール界としては、どこの国と云うよりもたえず〃本場〃であるヨーロッパの強力チームと交流をしたいと思っているわけで、たまたま今回はドイツ側の態勢が整っていたことと、これまでの両国の深いつながりから考えて招待を決めたわけです。

――今回のシリーズでいちばん期待することは

理事長　日本のレベルというものがどの程度のものか、その尺度を計るということと、ヨーロッパの傾向というものを直接確かめるという二点が大きな柱なのですがそれよりも、ミュンヘンへの第一歩ということを強く打ち出したいと考えています。

――女子の場合、来年モスクワで世界選手権が開かれるわけですが

理事長　私自身としてはあくまで技術の交流によって、ミュンヘンの土台になるものをつかみ出すことに焦点をおきたいと考えています。

また女子の場合、ホームコートと遠征とではいろいろな条件もちがうので、このシリーズの資料が来年の世界選手権に大きな役割を果すとは思えません。

ただ、先ほども述べたように女子の場合も日本の力を知るバロメーターにはなると思います。

――ミュンヘンへの最初のステップということを強調されていることがよく判りますが、西ドイツから具体的に何を学ぶべきでしょうか

理事長　西ドイツはオーソドックスなプレーで定評があり、いささかラフ・プレーに流れている日本の現状にとって示唆するところは大きなものがあると思います。

また、今年の世界選手権でフェアプレイ杯を贈られたというそのマナーも大いに見習うべき点ではないかと思います。

この機会にルールの解釈、見解についても充分話し合ってみるつもりです。

――今回のシリーズはもちろん日本側の解釈で進めるわけでしょう

理事長　女子の場合、試合時間などでヨーロッパ側と異る点があるといわれますが〃純日本式〃で運行していくつもりです。

――対戦する日本チームに対しては何を望みますか

理事長　勝つことだけにこだわって、つまらぬ戦術を使うようなことをせず、正面から堂々とぶつかって欲しい。

平生に練習したものを十二分に発揮して戦うことを強く望みたいものです。

――日本のレベル向上が云われている最近ですが……

理事長　今回は対戦を希望するチームの意思を尊重して日程を編成したのですが、男女のナショナルチーム、それに全立教の試合は大いに期待をもっています

――シリーズ後、ミュヘンンへの対策をどのように立てるのか腹案があるようでしたらお聞かせ下さい

理事長　具体的な構想は、やはりシリーズ後にならなくては立たないでしょうし、このシリーズの結果だけで決まるというものでもありません。

ただし、今回の試合によって選手たちもさることながら、われわれもミュンヘンへ出場するのだという気がまえを新たにしたいと思います。

また西ドイツのオリンピック対策なども知って、われわれの強化策につなげさせる面があれば参考にしたいものです。

ともあれ、地元でオリンピック開催が決まり、大いに意気あがる西ドイツと、ある面ではそれ以上の喜びと希望を感じている日本ハンドボール界が、このようにして国際試合を結べたことは大いに意義のあることで、全国関係者諸兄がシリーズの成功のために万全の準備と努力をはらわれるよう切望いたします（完）

日本チームの活躍を占う

男女合わせて24戦。日本側は何勝をあげられるだろうか。再三のヨーロッパ遠征と国内レベルの向上で、これまでほどのコンプレックスはないと関係者はいう。西ドイツの特色を中心に展望を試みてみよう。

西ドイツの戦法については「流れい」というのが定評になっている。どちらかといえば、エネルギッシュな突進力を主武器としたヨーロッパ各国に比べ、西ドイツは、ハンドボールの祖国にふさわしくオーソドックスな攻防技術を伝統とし、身上としているのである。

これまで全日本男子が3回、全日本女子2回、全日本学生が1回ヨーロッパに遠征し、例外なく西ドイツナショナルあるいはクラブチームと対戦しているが、印象は一様にその巧技を賞している。

今春渡欧した全日本の稲石コーチ（日本協会技術委員）は『迫力という点ではチェコやルーマニアの方が上だが、テクニック（ハンドリング）は抜群だ』といっており、今年の世界選手権ではフェア・プレイ賞をうけているほど、その展開はクリーンだ。

最近の日本のハンドボールは斗志と粗暴の混同でラフ・プレーが流行？している感じさえするが、西ドイツの来日は大きな刺激と反省を呼ぶのではなかろうか。

ところで、日本チームの実力も近年かなりあがって来ており、攻撃力は特にヨーロッパでも賞讃の声を集めているほどだ。

今回男子は13戦するが、うまく行けば2～3勝あげられるのではないだろうか。少くとも昭和31年の時のような全敗ということはないと思う。日本は力で押しまくってくるラフ・タイプには弱いが、テクニックの勝負ならそのシャープな動きで対抗出来る。

問題は、彼我の差を問われた時必ずはね返ってくる〝片手の球操作〟にどう対しようするかである。

彼らの片手によるプレーは、当然、両手よりも多彩となり豊富な変化を示すであろう。国際試合のたびに強く訴えられながら、相変らず片手でプレーする国内選手が少いためいっこうに進歩がない。

日本善戦のカギはディフェンス力ということになりそうだ。

来日メンバーをみると最年少が23才、平均27才とかなり高い。これはヨーロッパ各国ナショナルチーム共通の傾向で驚くにはあたらないが、遠征しかも連戦ということを考えれば、今回のシリーズでスタミナが西ドイツの〝泣きどころ〟にならないともかぎらない。

一方、女子は男子よりもさらに期待出来る。もともと西ドイツの女子は男子の栄光に比べて実績に乏しい。しかも日本側は女子実業団の激しい国内での対抗意識で、シーズンごとにそのレベルが引きあげられ、ヨーロッパのクラブチームとなら互角とまでいわれるようになったこと、40年11月世界選手権直後の親善試合で西ドイツナショナルチームを12―8で破っていることの二点があるのも心強い。

今春の世界選手権団長・馬場副会長も「ヨーロッパにおける日本女子の評判はすばらしく高い」といっており、来日チームも女子にはかなり〝警戒的〟だといわれる。来年モスクワで第4回世界女子7人制の開催が決まっており、西ドイツチームの編成を見るとベテラン(25～32才)6人、若手（20～23才）6人で、明らかに視察の意が含まれていることが判る。

戦法的にはポストプレーを主武器にリターンパスによるサイド攻撃が得意といわれるが、2回の遠征で日本選手が驚いたのはその試合かけ引きのうまさだ、という。ベテランの好リードで若手がうまく活かされていると見るべきか。

全日本上位の大崎電気(埼玉)、田村紡（三重）、大洋デパート（熊本）は何れも単独対戦で勝利を目標にしており、日本協会でも全日本戦必勝を期している。ともあれ洗れんされ都会的なプレーをすると伝えられる西ドイツ男女が、定評通り、その多彩なテクニックを見せ、上り坂の日本側をおさえこむことになるか。ミュンヘンオリンピックへの最初の布石として、日本側が大いに健斗、世界の名門西ドイツを苦境に追いこむことになるか。興味はつきない。

来日選手の横顔

○…ドイツ側から寄せられた来日選手のリストを見ると、今春の世界選手権で得点王となったリョーブキングやVFL・グンメルスバッハの至宝、シュミットなどの名前がなく、いささか失望したが、世界選手権でも活躍したGKのデュエルをはじめとして、ベテランのハルトビッヒ、1964年渡欧した全日本学生と対戦したハンブルグのエース・メンダッハ、イバースなどの顔が揃い、さすがに手剛そうな布陣である。

今回来日のGKデュエルは最近の西ドイツのキーパーとしては、出色であるとされており、R・S・V・ミヨールハイムに補強された選手として、国内リーグでも活躍している。

○…女子に眼を転ずるとナショナルチームのベテランと若手をミックスして作られた感じがする。

GKは現在のナショナルチームの第一キーパーのホイヤーが来日する。このキーパーとは、渡欧した全日本は対戦ずみ。

FPはケーラー、ロイターなどのベテランに配し、現在働き盛りのミルター（本誌31号26頁に紹介あり）、若手のナンバーワンといわれるミューラー、ビールカンツといった選手が中心となろう。

全般的に見て、年令は高いが、ヨーロッパの選手は男女とも年令が高いのが普通であり、驚くにはあたらない。10年以上のキャリアをもたないとナショナルチームの一員になることは難しいというのが常識である。先年来日した際のケンパ氏は37才の高令でCFをつとめたし、前々回の女子世界選手権で活躍のブールマイスターも35近い年であった。

西ドイツのハンドボール

近代ハンドボール・ルールを一九一〇年代にドイツが制定したことからドイツは〝ハンドボールの祖国〟と呼ばれている。

競技面においても、たえず世界の王座に君臨しており、世界選手権は男子11人制で4回（ほかに東西連合、東独が各1回）、同7人制で1回タイトルを握っているほか唯一回のオリンピック（ベルリン大会＝昭11）でも優勝を飾っている。文字通り〝ハンドボール王国〟だ。

男子の活躍にひきかえ女子は一度も世界タイトルを得ておらず、共産圏諸国に押され勝ち。

国内におけるチーム数は約三万三千といわれ、これはIHF（国際ハンドボール連盟）加盟国中最高の数字。登録選手数は50万と伝えられている。

一般の関心も高く〝国技〟とさえ云われているほどだが、球界運営で新旧交替の機が遅きに失した感があり、そのため近年では、世界選手権――特に7人制ではルーマニア、チェコなどの後塵を拝することが多い。

昨年から再び世界の王座へむかってその選手強化が積極的となりわが国の日本リーグにも似た国内リーグを北部と南部の二つ設けそれぞれトップチーム8クラブによって選手権を争っている。

この効果は、今年のヨーロッパカップでグンメルスバッハが優勝したことに現れている。

現在でも、西ドイツでは11人制に非常な力を入れており、本年初頭の東ドイツの7人制主力化の発表にも、断固11人制を維持する趣旨の発言をしている。

昨シーズンの7人制国内リーグに引きつづき、今春から11人制の国内リーグを行なっている。

西ドイツではシーズン制がはっきりしており、4月〜9月が11人制のシーズン、10月〜3月が7人制のシーズンになっている。

従来とかく〝従の立場〟にあった7人制（ドイツでは〝室内ハンドボール〟）の立場がここ数年の間に大きく変化しているのは事実であり〝主の立場〟にあった11人制が国際的に衰えているところに西ドイツ協会の大きなジレンマがあろう。

そのような状況下に出てきたのが、男子の7人制、11人制の国内リーグ結成ということである。この成果が本年のヨーロッパカップで第三回、第四回大会のFA・ギョッピンゲン（B・ケンパ氏の率いるチーム）の二連勝以来、久しく西ドイツを離れていた栄冠を、VFL・グンメルスバッハが西ドイツにもち帰ることを生んだということができよう。

この国内リーグは、現在8チームで行なわれているが、それぞれのチームと二回戦う。一回はホームチームとして、相手を迎え、各自のチームの故郷で、一回はビジターとして、相手チームの故地にのりこみ、試合を行なう。

結局一シーズン各チームは14回試合を行ない、その勝敗、得失点差によって、順位をつける形をとっている。

昨シーズンの戦績は北地区ではVFL・グンメルスバッハが圧倒的な強さを見せ優勝し、余勢を駆って、西ドイツ選手権、ヨーロッパカップを獲得している。これに続いてリヨーブキングのダンケルセンが2位、以下ハンブルグ・SV、TUS・ウエリングホッヘン、ポリツアイ・ハノーバー、VFL・バットシュバルトウ、RSV・ミョールハイム、ST・ゲオルグハンブルグとなっている。

南地区は激戦であり、最後まで予断を許さない状況であったが、混戦の中から、TV・ホッホドルフが抜け出て優勝、グンメルスバッハと争ったが7―23の大差で敗退している。2位はSG・ロイターハウゼン、以下TSV・ビルケナウ、TUS・ノインキルヘン、RF・ベルリン、VG・ミョーリンゲン、TV・ホッヘルハイム、TSV・チンドルフと続いている。

この中を見ても判るように、有名チームが入っていないことがある。たとえば南の雄、ケンパ氏の率いるFA・ギョッピンゲン、一時は西ドイツ球界を席巻したTHW・キール、伝統あるゾーリンゲンSVなどの名前は見えない。これらのチームはあるいはヨーロッパ杯に、あるいは各地のクラブ対抗に堂々と勝ったことのあるチームであるが、いずれも、国内リーグの前哨戦で敗れ、国内リーグには参加できなかったのである。この一つをとって見ても、いかに西ドイツでは、チーム間の力が平均していて、底辺が広いことが良く判るであろう。

現在のグルメルスバッハでさえもいつ国内リーグから消えるか判らない状況である。国内リーグに入ろうとして、地区リーグで力を貯えているチームが多数あるのだから。

広い底辺と、多くのファンに支えられている西ドイツのハンドボール、学ぶものはありすぎるほどある。それを自らのものにしようではないか。

西独から何を学ぶか

勝利への執念と根性を……

村田 弘

西ドイツのハンドボール技術はハンドボールの教科書といってよいぐらい正しく美しく優秀なものである。

精神面で欧州の選手が試合に対する勝利への執念と根性の強さを大いに学びたい。肉体的にいって体格の大きいことは別としてまづ肩巾及び胸の厚いこと、体の柔軟、手首の強靱、瞬発力に富んでいる点そしてゲームスタミナとエネルギッシュな活動力はすべて練習練習で鍛え抜いた賜であることを知るだろう。

技術的にまづボールを握るということである。握ることによってボールのスピードが増し、ボールの保持能力がよくどこからでもどういう姿勢からでもコントロールのよいパスが出来る。又相手に少々強くあたられてもボールを落さない強烈なシュート、フェイントが自由自在に出来るのである。

パス、キャッチにミスらしいミスがなくプレーを忠実に行なうがこれは基礎を完全にマスターしている証拠である。

シュートは打ったら得点するという旺盛な気構えがありありと見せつけられる。いかなる体勢からでも素早い動作でボールが見えないくらいのスピードのシュートをする。フットワークの速さと良さはエリア附近でのマークデフェンスでオフェンスより劣らない程敏捷に動くことから知るだろう。

攻撃はよく走りスピードのあるボール処理と多彩な動き、個人技と共に変化に富んだコンビネーションプレーが多い。又ポストプレーが多くわずかのスキにポストに入れるボールテクニックとトリックプレーもスピードがあり防御に余裕をあたえない。ブロックプレーも日本のようにブロックしたからシュートするのでなくシュートする瞬間にブロックをかけるというやり方は大いに学んでほしい。

防御は体格を利しての6人1線防御システムをひくがロング、ミドルに対して2・4デフェンスで効果的な防御をするだろう。攻撃した際の詰の早さでシュートチャンスをうまくつぶすことである。又ボールを持たない相手に対してもボデイチエックをやり攻撃力を破壊する。世界選手権で西ドイツチームがマンツーマンデフェンスを採用していたがもし来日チームがやるとしたらこれも大いに研究したい。攻撃防御への展開の早いことは単なる早さだけでなく判断力のスピードを物語っている。

攻撃防御の組織的な動きも立派だがその基本となる個人技の優秀な技術を見逃がしてはならない。

GKの技術は体全体を使ってボールをはじき出すそしてどんなノーマークでも取らねば勝てないという根性のあらわれた高度なスピードのあるプレーをするだろう。

最後に選手権でなく親善試合であること彼等は40×20のコートでゲームをやって又体格の相違からくるプレーの違いもあって真似の出来ない分野のあることを知っておかねばならない。然し大いに学ぶべき点は学び日本のハンドボール技術を一段とひやくさすと同時に彼等に勝つためにはどのようにすればよいか研究しなければならない。(日本協会技術委員・第6回世界男子7人制選手権日本選手団監督)

西独から何を学ぶか

片手からの多彩な攻撃を……

北川 浩

一九六二年六月、女子の世界選手権に初参加の私達日本選抜チームは羽田を出発ハンブルグ空港にヨーロッパに於ける第一歩を印したのであるが、当時世界選手権に出場するのは時期尚早を真剣に説く人々も多かった。なにしろ日本の女子チームは戦前戦後を通じて国際試合を行うのは初めてのこと、その初の国際試合をヨーロッパに飛び込んで行うと云うのだから冒険といわれても仕方なかった。然しヨーロッパ滞在中ハードスケジュールの中で七勝八敗一分の成績を残しヨーロッパのハンドボールの高さを測ることが出来た

私達の西独に於ける戦績を振り返って今度来日する女子チームの判断をして見たいと思う。その当時の全日本選抜チームは四実業団よりえり抜かれた日本最強チームで皆気心が良く合っていた。第一戦は平均身長一七〇糎以上のベルリン選抜チーム。日本女子チーム史上初の国際ゲームであった。追いつ追われつの好試合で観集を湧かせ「勇敢に戦う小さなチーム」と、云うニックネームをいただいて8—8で引き分けた。この試合で身長差は目立っていたが走力は我々の方が優れていた様だが大きな手でボールを握って振廻すフエイントには苦労した。ボールを握ったプレーの有利なことを第一戦で悟ったのである。ドイツナショナルチームと三回対戦したが、4—12、7—13、6—15と全敗した。敗因はドイツの速攻に対して帰陣が間に合わない為と、種々のシュートモーションを防ぎきれなかった為である。ところがこのドイツチームも世界選手権では第八位。

この遠征の通じて日本上位チームがヨーロッパに行けばクラブチームや都市選抜には勝てるが、ナショナルチームには大敗することを身をもって感じた。日本選抜チームや全日本上位チームは我々の期待に応えて勝ってもらいたい。日本チームも大型化しているので前チームより体力差はなくなっていると思う。

ヨーロッパ遠征チームが持ちかえった色々の技術も消化され一般選手も体得した。ただ日本人にない外国チームの「力技」をいかに防ぐかが問題である。

日本側としては、活路を決断力を富む攻撃に求めたらどうか。

ともあれ、今回の国際試合によって女子の指導者、選手に自信がつけば、今後の世界選手権の活路につながることになり、日本女子界にとって試金石となろう対戦チームの積極策と健斗を期待したい(日本協会技術委員、第2回世界女子七人制選手権日本選手団コーチ)

ナショナルチーム

全日本メンバー決定

対西独戦に備えて

常務理事会の決定によって設置された全日本選手選考委員会は七月の全日本学生選手権大会の時に一度会合を持ち、コーチング・スタッフの決定と全日本チームの選手決定の基本線を決定した。その基本線は8月に行なわれる全日本総合の優勝チームを主体とした全日本チームということであった。

この度 常務理事会によって決定を一任された第二回の選考委員会（協会から鈴木会長、荒川理事長、安藤審判部長、中沢技術部長、徳永普及部長、コーチングスタッフから宮原、宇津野、井、北川、近藤、勝、北村、村田、高橋英の各氏）が開かれ、以下のように全日本の選手を決定した。なおこの全日本チームは対西独戦のために作られたものである。

男子		
GK	福本　弘	（大崎電気）
〃	島崎政治	（大阪イーグルス）
〃	上野　清	（東京教大）
FP	竹野奉昭	（大崎電気）
〃	井上素行	（〃）
〃	西村　功	（〃）
〃	金田純男	（〃）
〃	近藤信行	（〃）
〃	加藤建文	（〃）
〃	木野　実	（全立大）
〃	北村文雄	（〃）
〃	平岡秀雄	（東京教大）
〃	北井晴次	（埼玉教員）
〃	近森克彦	（芝工大）
〃	樫塚正一	（日体大）
女子		
GK	渡辺美智子	（田村紡）
〃	川崎幸子	（大崎電気）
〃	小原名苗	（大洋デパート）
FP	種村好子	（田村紡）
〃	渡辺好子	（〃）
〃	水谷秀子	（〃）
〃	小林五子	（〃）
〃	清水一子	（〃）
〃	長谷川邦子	（〃）
〃	新保郁子	（大洋デパート）
〃	今村マス江	（〃）
〃	渡辺須和子	（〃）
〃	垂水秀代	（〃）
〃	早川清美	（大崎電気）
〃	鈴木功子	（〃）

日本—西ドイツ対戦総記録

昭13. 9	日体	○19—6	H・ユーゲント
昭15. 6	日本(日体)	○8—5	在日独人選抜
	日本(日体)	○8—5	在日独人選抜
昭17.11	全日本学生	○8—7	訪日独艦隊
昭18.12	全日本	△11—11	在日独人選抜
昭31. 9	全日本学生	●8—19	西ドイツ選抜軍(N)
	全東海	●13—24	〃
	富山ク	●9—21	〃
	全日本	●16—27	〃
	全九州	●6—22	〃
	全山口	●5—14	〃
	関東学生	●10—18	〃
	全日本	●12—28	〃
～以上何れも11人制、於国内～			
昭36. 3	全日本男	△30—30	ハイデルベルグ
	〃	○28—27	グンメルスバッハ
	〃	●16—25	ゾーリンゲン
	〃	○30—22	ギーセン
	〃	○13—12	フランクフルト
	〃	○13—12	マインタウンス
昭37. 6	全日本女	△8—8	ベルリン
	〃	●4—12	西ドイツN
	〃	●7—13	西ドイツN
	〃	○16—7	南バーデン
	〃	※●6—15	西ドイツN
昭37、12	全日本学生	●20—26	ハンブルグ
	〃	●17—27	ブレーメン
	〃	●17—19	オエルデ
	〃	●16—17	ベッカム
	〃	○31—15	エッセン炭鉱
	〃	○24—22	YMCA
	〃	○14—13	ゲルセン
	〃	●17—26	西ドイツN
	〃	●5—12	オッフェン
	〃	○10—8	バーゼル
昭40. 3	全東京	○38—7	ドイツ艦隊選抜
昭40.11	全日本女	※●7—15	西ドイツN
	〃	○12—8	西ドイツN
	〃	○14—4	ブレーメン
	〃	△9—9	ハンブルグ
	〃	○16—6	フランクフルト
昭42. 1	全日本男	※27—38	西ドイツN

～以上何れも7人制．40.3の試合は東京．その他は西ドイツ各地～

〔注〕※は世界選手権での対戦，Nはナショナルチームの略

公認コーチ制度を設定

9月25日から駒沢で初講習会

本部協会では画期的な試みとして今年度から新たにコーチ制度を設けることになり、その最初の講習会を9月25日から3日間、東京・駒沢屋内球技場で開くことになった。

コーチ制度のねらいは指導者の増加と資質の向上であることはもちろんだが、指導組織の確立と指導方針の一貫化をも果そうとしている点に、今回の大きな特色がある。

この講習会に参加するのは各ブロック協会から推せんされた各3名ということになっている。

講習会日程は次の通りだが、本部協会が普及面の強化と、指導の一貫化に積極的な態度を打ち出したのは大きな前進であり、その成果が期待される。なお第3日は全員で日独対抗最終戦を観戦する。

【ハンドボール公認コーチ講習会日程】（ ）内担当講師

▽第1日、講義「これからのハンドボール・世界のハンドボール界現況」（荒川清美）「スポーツ科学講座Ⅰ」（阿久津邦男、宇津野年一）「同Ⅱ」（技術部）

▽第2日、「実技Ⅰ・基本技」（技術部）「同Ⅱ・応用技」（技術部）「研究協議」「記録映画鑑賞」

▽第3日、「実技Ⅲ・総合技」（技術部）「審判法」（審判部）「実技Ⅳ・ルール解釈など」（審判部）

第19回全日本総合選手権・速報

大崎電気（男子）田村紡（女子）に栄冠

8月23日〜26日・福井

男子トーナメント

▽1回戦

大阪経大（学連・大阪）22−14 日本鋼管福山（中国・山口）
本田技研（実連・三重）25−21 東北学院大（東北・宮城）
埼玉教員（関東・埼玉）24−13 中大（学連・東京）
早大（学連・東京）31−8 奈良ク（近畿・奈良）
宗形製作所（実連・大阪）27−12 高知ク（四国・高知）
甲南大（学連・兵庫）20−16 福井教員（福井）
大阪イーグルス（推薦・大阪）19−16 中京ク（東海・愛知）
大崎電気（推薦・埼玉）19−11 関西大（学連・大阪）
氷見ク（北信越・富山）21−14 名古屋大（学連・愛知）
住友化学（実連・愛媛）25−18 熊本教員（九州・熊本）
日体大（学連・東京）34−21 自衛隊勝田（関東・埼玉）
同志社大（学連・京都）23−11 常盤工業（実連・岐阜）
東京教大（学連・東京）35−16 佐野工ク（近畿・大阪）
東北大（学連・宮城）25−18 福井大（福井）
芝浦工大（推薦・東京）25−13 清商ク（東海・静岡）

▽2回戦

全立大（推薦・東京）28（16−9、12−3）12 大阪経大
大崎電気 29（17−5、12−7）12 氷見ク
埼玉教員 25（14−7、11−8）15 本田技研
日体大 31（13−9、18−4）13 住友化学
早大 21（14−8、7−5）13 宗形製作所
東京教大 32（19−9、13−7）16 同志社大
芝浦工大 38（21−9、17−6）15 東北大
大阪イーグルス 29（22−5、7−12）17 甲南大

▽準々決勝

全立大 34（21−9、13−9）18 埼玉教員
大阪イーグルス 21（10−7、11−3）10 早大
大崎電気 20（13−10、7−7）17 日体大

▽準決勝

東京教大 26（14−8、12−10）18 芝工大
全立大 28（17−5、11−4）9 大阪イーグルス
大崎電気 22（11−10、11−10）20 東京教大

▽決勝

大崎電気 20（10−10、10−3）13 全立大

女子

▼予選リーグA組

大崎電気（埼玉）18−1 ブラザー工業（愛知）
有磯高（富山）13−5 宗形製作所（大阪）
大崎電気 25−0 宗形製作所
ブラザー工業 7−5 有磯高
ブラザー工業 18−8 宗形製作所
大崎電気 27−2 有磯高校

大崎電気が決勝トーナメント進出

▽同B組

田村紡（三重）26−0 小松市女OG（石川）
三菱鉛筆（神奈川）19−0 美和ク（兵庫）
三菱鉛筆 23−2 小松OG
田村紡 22−2 美和ク
小松OG 7−5 美和ク
田村紡 11−7 三菱鉛筆

田村紡が決勝トーナメント進出

▽同C組

大洋デパート（熊本）27−4 清水女高（静岡）
全福井ク（福井）12−6 日女体大（東京）
大洋デパート 26−3 全福井ク
清水女高 14−8 日女体大
清水女高 10−4 全福井ク
大洋デパート 28−3 日女体大

大洋デパートが決勝トーナメント進出

▽同D組

愛知紡（愛知）13−8 東京重機（東京）
日体大（東京）10−0 福井商（福井）
愛知紡 17−2 福井商
日体大 14−3 東京重機
東京重機 7−4 福井商
愛知紡 10−8 日体大

愛知紡が決勝トーナメント進出

▼決勝トーナメント1回戦（＝準決勝）

大崎電気 12（7−5、5−3）8 愛知紡
田村紡 11（6−5、5−5）10 大洋デパート

▽決勝

田村紡 7（4−3、3−2）5 大崎電気

「このようにして世界選手権を獲得した」を読んで

本誌第44号に掲載されたチェコナショナルチーム・ケーニッヒコーチの『このようにして世界選手権を獲得した』は、大きな反響を呼びおこし編集部はもとより、本部協会にも多くの意見が寄せられている。
そこで本誌では、選手強化、選手指導のベテラン三氏に一文の読後感を求め、今後のわが球界の強化対策の一つの示唆とするよう試みてみた。

ただ感服するだけでは駄目だ　実行しよう

宇津野年一

この項を熟読し、近くには東京オリンピックで大活躍した女子バレーボール全日本チームの大松監督のチームづくりを彷彿させるようなベードリッヒ・ケーニッヒのチームづくりと世界選手権獲得への執念には全く感服以外にはない「為せば成る」「人間に不可能の文字はない」と、教えてくれた古人の言葉をいまさらのように金言として再認識せざるを得ない。

数多くの国際試合の経験を基盤とした彼が、新技術の開拓への努力、相手をスカウトすることにも万全を期し、綿密な計画に基づいて行なった練習指導など、コーチの苦労のほどが文面に滲みでており、現場に立つわが身を振りかえるとき、彼の心底までがハンドボール一色であったことが、汲み取れる気持である。

彼が世界選手権獲得に成功したその日まで、選手と寝食を共にし、一身同体、苦楽を分ちあったことも想像に難くなく、コーチのあり方として大いに参考とすべきであろう。

いま日本ハンドボール界に打ち寄せる波音は「強くなれ」「強くなれ」という叫び声にも似た音だと思う。その対策は、第一に底辺の拡大、それは小・中学校への普及であり、第二に強力チームの育成である。それには多くの指導者を養成すると共に、指導体系の確立など、残された諸問題の解決によって、一刻も早急に世界の桧舞台の上位進出が、日本ハンドボール愛好者の切なる願いであろう。

世界のトップ・レベルにあるチェコにおいて、なお万難を排し、人事を尽した彼の偉大さもさることながら、これを支援したチェコの関係者にも敬意を表したい。翻ってわが国の関係者もあげてこうありたいと願う。

指導することは実に難しいことと思うが、数多くの体験を踏み台として、練習法の案出、指導法、新技術の研究と開発につとめ、理論と実際の両面から分析指導をする人こそ優れたコーチと言われるが、彼が唯単なる過去の経験だけに頼らず、広く各国に新技術を求めての武者修業に二ケ年を費し、世界の強国の手の中を知り、チェコ・ナショナルチームに勝利を呼び込むすべての技術を指導したことを、われわれは知るべきであろう。われわれは「為せば成る為さねば成らぬ成る業を、成らぬと捨てる人のはかなさ」と、人に努力することを教えてくれた武田信玄の言葉を体し、過去何回か行なった国内外での国際試合を深く反省し、山積みされた諸問題の解決には、全国のハンドボールマンの総力を結集することこそ解決の道であると思う。

わが国のハンドボール界にも、必ず彼のような「ハンドボールの虫」は存在するものと信ずる。もし日本に人なしとするならば、日本のハンドボールは今日のように短時日で長足の進歩は見られなかったであろう。日本の彼を発掘し、その人のために両手をさしのべ、協力することも必要ではなかろうか、日本の彼が、チェコの彼に破れないことを信じたい。

大きいコーチへの信頼感

小袋是郎

彼の偉大さや努力はあったにしても、日本の指導者に比べて、第一に環境に恵まれていたことである。第二は協会の指導姿勢と首脳陣の度量の大きさである。

第一点。世界選手権大会は、常にヨーロッパ地区で開催され、ヨーロッパでは選手団を国家管理する国が多く、ハンドボールの強豪が集中し、お互の国際交流が簡単に行なわれることではないだろうか。

日本が国際交流を実施すれば、選手は経費や社会生活の面で常に大きな隘路があり、指導者はこの打開のために心身を消耗し、試合で勝つことよりも参加することが精一杯なのが現状である。その点、彼は地の利と環境に恵まれていた。チェコあたりが毎年いや常にやれる国際交流も、日本では二年か四年に一回位では、ハンドボールの国際的視野に立って強力な全日本チームを作ることは非常に困難なことである。そのためにも、全日本チームの指導者には強力なチーム作り以外には負担をかけずに、毎年一回は海外視察をさせる位の努力は協会首脳陣がすべきである。

第二点、協会の指導姿勢と度量の大きさであるが、彼は目的達成迄の指導において、少々の失敗はあったと思われるが、日本と異なる点は、協会の一貫した年次計画と彼に対する絶大なる信頼感である。彼も始めから偉大なるコーチではなく、コーチ就任後の努力即

ち選手生活において修得した技術を基礎に、独創的な指導性を結びつけて、チーム作りに専念させた首脳陣の度量の大きさである。日本協会の指導姿勢としては、目標に向った全日本チームの指導者が、よほどの失敗がないかぎり、数年間はチーム作りに専念させるべきである。今日迄の指導姿勢は、全日本チームの指導者が試合の度にあまりにも変わりすぎて指導の一貫性を欠いていた。例外もあるが、貴重な遠征経験が特定チームのみに利用され全体的なハンドボールのレベルアップには活用されず、世界選手権出場の指導者が、大会で修得した高度な技術指導が全国的になされなかったことが、現在の技術的な立遅れになった原因ではあるまいか、と言うのも学連や実業団クラブチームで活躍している選手達は、特定の高校のみではなく全国各地の高校で養成されていることを思えば、今後は国際試合で修得した高度な技術を地方の高校指導者にも伝達し、より強力な選手作りをすることが大切である。

手記の感想を結論的に書けば、今後出来る全日本チームの目標を、何に向けるべきかである。世界選手権で一勝したといって喜んでも"大人気無い"ことで、極論かもしれないが、試合に臨んで優勝出来なければ二位も最下位も同じである。

目標の第一は、1972年ミュンヘンオリンピック出場の全日本チーム指導者を、過去の名声にとらわれずに実行力のある人材を早急に決定すべきである。

第二はオリンピックの全日本チームを、大学、実業団等の若手、高校二、三年生を主体にして決め、長期計画のもと総べての国際試合に臨み経験を豊富にさせるべきである。途中少々の失敗はあっても足をひっぱるのではなく、協会の総力を結集して第2のベードリッヒ・ケーニッヒを日本に作り1972年オリンピックの優勝を目指すべきではあるまいか。

豊富な国際試合に裏打ちされた勝利への執念

箱崎敬吉

第6回男子7人制ハンドボール世界選手権大会で優勝したチェコスロバキアチームのコーチ、ベードリッヒ・ケーニッヒの語った短文を読んですべてを知ることはできない。

しかし、この短文を読んでまず感ずることは、彼が最も力を入れたという豊富な国際試合の経験である。1964年の第5回大会終了後3年間に実に30数回という、いかに地理的条件が違うとはいえ日本では到底考えられないことである。「豊富な国際試合に裏打ちされた勝利への執念」これがチェコを世界の王座につかせたのである。

次に、コーチ、ベードリッヒ・ケーニッヒの指導力である。彼が選手の指導において常に最善をつくしているということである。相手チームを徹底的に研究し、対戦を予想されるすべてのチームの試合をこくめいにフイルムに納め、特にルーマニアとの試合は三方向から撮影するなど、自分を知り相手を知り、コーチみずから指導体験を積み、常に練習や戦法に工夫と改良を加えている。

国際試合——反省（相手チームの徹底的研究と対策）——対戦チームを予想した意図的練習——国際試合の繰返しである。

チェコはコーチ制度がよく整備され、立派な職業として認められ、さらに実力に応じて等級がつけられていると聞いているが、日本においても1972年のミュンヘンオリンピックに備え専門職としてのコーチ制度の確立が急務であろう。いずれにしても現在のような本職の片手間仕事としてのコーチでは、チェコのような事前に準備され計画された万全の指導はできない。ベードリッヒ・ケーニッヒは、国際試合で得た各国チームのメニュウを全部揃えた後、いよいよ本格的な準備期間に入っている。まず候補選手の個々の能力を高め、次に試合形式でそれぞれの目的をもたせた練習をし、最後に予想される仮想敵に合わせた徹底的な練習である。全く計画的な万全の構えであり、勝利への執念がまざまざと感ぜられる。

スポーツに奇蹟はない。結果には必ず原因がある。チェコの優勝も勝つべくして勝つだけの努力があったこそである。

当機関誌によれば、ヨーロッパではすでにミュンヘンに備えて、ジュニアチームによる国際交流がさかんになっていると報じている。日本もミュンヘン大会を契機にあらゆる面でハンドボール発展の大きなジャンプ台としたいものである。

フランスの技術研究（3）

基本のパスをまずマスター

訳　藤　本　強
（日本協会常務理事）

先号からボール扱いの技術について、まずキャッチについて触れた。キャッチに続いて、ボール扱いの基礎になるパスについて述べることにする。

☆　☆　☆

パスの技術

パスはプレイを構成するもっとも基礎になる要素である。各チームは各選手のパスの能力を知っていなければならない。よいパスがつながればつながるほど、試合の主導権を握り、ハンドボールの真価を発揮することができる。シュート以外には、ボールを失ってはならないというのがパスの鉄則である。

良いパスのための基本的条件

次の4つが基本的な良いパスの条件としてあげられる。

1．もっとも良い位置にいる味方にパスすること

2．もっとも良い瞬間にパスすること

3．もっとも良い地点にパスすること

4．もっともその状況に適した技術を使ってパスすること

これらの4つはもつとも基本になることであり、以下これについてやや詳しく述べていくことにする。

1、すべての味方の位置を良く知っておいて、攻撃の展開にもっともふさわしいと思われる位置にいる味方にパスをする。そのためには〝魚眼レンズ〟のように広範囲を視野におさめられるような眼をもつことが、味方、相手の位置をつかみ、その後のゲームの展開を予側できる能力をもつていることが必要となる。このことは常に練習時に頭に入れておかなければならない。

2、もっとも敵の手からカットされる危険が少なく、味方がもっともその後の動きができる可能性が強いタイミングにパスをする。これがもっとも良い時ということができる。つまり、カットされることなく、キャッチした者がパスでも、シュートでももっとも巧くできる時にパスをするということである。

プレイの長い間の経験が相手も自分も走っている時でも、逆に動こうとしている時でも、いつパスしたらよいか判るようにする。またプレイの予測もたつようになってくる。

3、パスするにせよ、シュートするにせよ、動くにせよ、高からず低くない、肩から腕にかけての高さのパスがもっともよい。キャッチする選手が普通の姿勢のままキャッチができ、しかも彼のスピードを殺さないで生かす位置にパスするのが最上である。

特に相手が走っている時はそのコース、スピードをはかり、どの位置にパスがいったら、もっと効果的かを考え、パスをする。

ロングパスは非常に難しい。これは逆襲の時にしばしば起る。この時はもちろん位置に気をつけるのは云うまでもないが、この時はもう一つ、敵をフェイントによって、パスをしない予定の選手にひきつけ、その後でパスをする技術をも身につけておく必要がある。それによって、パスされた選手はノーマークになることがしばしば出てくる。

4、以上の三項のほかに、ゲームの時には、しばしばマークされながらパスしなければならないケースがでてくる。この時には、まず右、左両手を使うことを練習する必要がある、次にこの後に述べるパスの種々のテクニックを完全にマスターし、どのような場合でもマークをはずして、パスできるようにしなければならない。

ただ単にテクニックをマスターしているというだけでは、ゲームの場合役にたたない。とっさに種々のパスが使え、しかもその場合にもっともてきしたパスが充分に使いこなせるまでになっていなければならない。

種々のパス（第1図1～8）

現在では、多くのパスがあるにもかかわらず、技術的に中程度の選手はごく限られた数のパスしか使用していない。

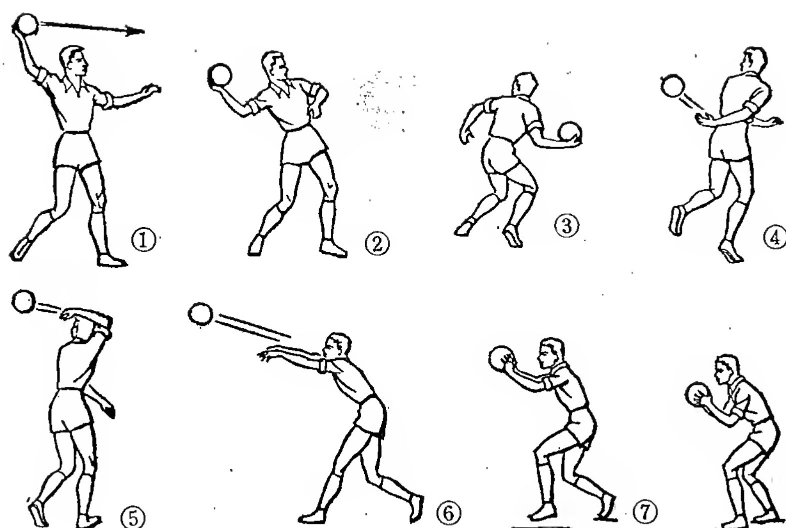
片手パス　ハンドボールでごく普通に使われるのはこのパスである。手を頭上に伸ばしてから、やや曲げ肩の上から、あるいは横に伸ばし、腰の位置からなど投げられる。（図1～3）腕を下に向け手をスプーン状にして、ボールを手の上にのせて行なうパスもある（アンダーパス）

味方を見ずに、横に自分の体の前をとおして、あるいは自分の体の後をとおしパスを行なう場合もある（サイドパス、バックハンドパス）。パスは片手または両手でそれぞれの場合に応じて行なう。

パスは単にパスするのでなく、場合によってはフェイントを伴って行なうパスも必要となる（たとえば、左にパスするとみせ、右にパスする、上からパスすると見せ、下からパスする。シュートすると見せ、バックハンドパスをする）。

豊富なパスの技術をもつ選手が構成しているチームは高度の戦術をとることができる。相手の一寸した動きの瞬間をとらえ、パスすることができる力を備えることが必要である。

詳細に入る前に、基本的なパスについて触れておく。これは相手と味方の動きにつれて変化させる



高度のパスに入るのにぜひとも必要なものである。

　両手パスは丁度バスケットボールのパスのように、胸の高さから両手でボールを押しだすようにする。このパスは短い距離ですばやくパスする時に使用する（図6〜8）。

　ボールは両手をなるべくくっつけて持ち、ひじを曲げ、手をすばやく伸ばし、ボールを押し出す。それと同時に前もって曲げていたひざを伸ばし、ボールに力をそえる。

　片手の肩の高さから投げるパスはハンドボールでしばしば普通に使われるパスである。このパスは両手パスでは届かない距離の中距離もしくは長距離のパスに使用する。たとえば、逆襲の時、サイドから中央に、サイド間のパスの時に使用する。

　右手でパスをする場合には、左足をパスする方向に踏み出し、まず体重を両足にかけ、ボールを右眼のそばにもっていき、右手の指はせばめボールをしっかりと握る。左手は方向を示すとともに投げるのを援けるようにする。（特に少年・少女の場合には、片手で投げる時でも、小さな手を補う意味において右手を援け、ボールが離れるまで左手でもボールを支えるようにする）。パスを行なう瞬間には、体重は左足にかけ、ボールを離す瞬間腕を伸ばし、ボールに力をそえる。

　これが基本になるパスである。これを応用し、腕をまっすぐに伸ばし、頭上からのパス、肩上からのパス、腰の高さからのパスもすることができる。

　両手パス、片手パスはごく普通にゲームの際にディフェンスの前で使われる。たとえばエリア付近でもこのパスは使われる。しかしながら、ゲームの場合には、単にこのような基本的パスだけでは、通用しない。こういった基本的パスをマスターした上で各種の実戦的なパスをマスターしなければならない。こういった各種のパスをマスターすることにより、フェイント効果を増すことができる。

　フックパス（頭の上にボールを通す、右手の場合手をかぎ形に曲げ、自分の真横にいる味方にパスをする）、バックハンドパス（腰のあたりの体の後側を通す（図4参照）、首の後を通すシュートモーションからの（図5参照））などの高度のパスを十分に練習しなければ一流のプレーヤーにはなれない。これらのパスははじめは相手を見ながら行なうが、しだいに実戦向きの味方を見ないで行なうようにしなければならない。しかし、これらのパスはパスをするもの一人で練習したのでは、味方もフェイントにかかってしまい。かえってミスをすることがあるから、チームとして練習をつむことが必要となる。

　パスをするには、いくつかの条件が揃わねばならない。それはすでにパスの基本的な条件の項で触れているように、時間的なタイミング、空間的な位置、よりよい位置にいる味方に、もっともふさわしい種類のパスを使ってという四つの条件が満たされなければならない。

　しかも単に一人の選手が練習しさえすれば良いというのではなく、チームとして磨かなければならない技術も多い。チーム全体が一丸となって練習することが望ましい。

時評

むくいよ、訪欧時の恩義

西独を心から歓迎しよう

○…待望の西ドイツチームが来日する。特に女子の外国チーム来日は史上初。

日本側の受け入れ態勢も着々と進んでいるようで、国際試合も回を重ねると、さすがにその運営も手際がよくなり、特に今回は渡辺副会長を委員長とする特別委員会が編成されたこともあり、これまでにない新鮮な〝企画〟が楽しみである。

○…ところで日本と西独ハンドボール界の結びつきは深い。そして交流のたびに日本チームは大きな刺激をうけ発展へのステップとしている。ことに日本チームがヨーロッパに遠征した場合、西ドイツ協会が示してくれる好意は大変なものだそうだ。来日メンバーの窓口的存在であったハンブルグ協会も親日派で、38年全日本学生を率いて渡欧した渡辺一己氏(関学OB)は本誌(13号)に寄せた帰国報告で次のように記している。

○…『欧州への第一歩となったハンブルグ。ここが至れりつくせりのもてなしで、それまで不安だったわれわれにゆとりをもたせてくれたのは実にありがたかった。

協会関係者の紳士的な態度、細かい気の配りは、選手団に大きな自信を与えてくれた。もしハンブルグでいま少し冷めたい扱いを受けていたらその後どれほどまごついただろうと思う。おそらく帰国する日までうろうろしてしまったのではなかろうかとさえ思う。それほどハンブルグ協会の受け入れ体勢は万全だった。

たとえばハンブルグ空港到着と同時に渡されたハンブルグ滞在中のスケジュールがすべて日本語で記されていた小さな心づかい。この一つをみても親切のほどがわかっていただけよう。

試合場のふんい気も第一戦を飾るに全くふさわしい豪華なものだった。(中略) ともかくハンブルグはあらゆるケースを体験させてくれた。しかもすべて紳士的な態度で……。

重ねていうがハンブルグに欧州上陸第一歩を踏んでほんとうによかったと思う。(以下略)』

○…このほか全日本女子も西ドイツには多大な恩恵をうけている。〝神様〟といわれたケンパ氏(昭和31年来日、ドイツの生んだ名FW)は、日本チームが訪独するたびに試合場に姿を見せて日本チームをコーチしてくれたそうだ。

これまでに日本の受けた恩義にむくいるためにも、今回の来日チームに対して日本側関係者は心からの歓迎と、立派な試合態度を示して欲しい。

ようこそ、西独チーム!!(S)

思いつくまま

苦脳から再び躍進へ

王座奪還に燃える西独球界

ハンドボールとドイツ。それは柔道と日本の関係に似ている。

古代ローマにさかのぼるというハンドボールの原形を近代化し、そのルールを制定したのがドイツであり、以後永い間世界ハンドボール界の王座に君臨したドイツであってみれば〝国技〟の一つに数えられて当然であろう。

しかも、オリンピックで過去に唯一回ハンドボールが採りあげられたのはドイツの首都ベルリンで開かれた一九三六年大会であり、今また永年の悲願かなって聖火の下でハンドボールが行われようとしている一九七二年の大会地は西ドイツのミュンヘンである。

ところで、そのドイツ・ハンドボール界が近年になって往時の精彩を欠き、世界選手権などでも東欧諸国にその牙城をおびやかされ、今日では11人制男子の世界タイトルを保持しているにすぎない。東西分裂の悲劇はいたしかたないとして、後退の最大因は、7人制主体化に切り替えるタイミングが遅きに失したからではなかろうか。

歴史的にみても7人制(室内)に対する研究はドイツよりも東欧北欧諸国の方が早い。しかも第二次大戦後、IHF(国際ハンドボール連盟)運営の主導権をこれら各国が握ったことによって、世界ハンドボール界のメエインエベントは11人制から7人制に移りかわるのに時間はかからなかった。

東西ドイツ関係者も7人制主体化にスイッチせざるを得ぬ時が来たのだ。そうした体制がしかれたのは一・二年前でしかない。

しかし、一たん踏み切ればさすがは王国、打つ手は早い。

昨年から国内トップクラスの16チームを南北に分けて全国リーグを開き、その勝者同士によって西ドイツ選手権を争う新方式を採った。その成果はグンメルスバッハが、今春のヨーロッパ・カップ優勝を飾ることに実った。

ヨーロッパ・カップ奪還を果たした西ドイツ球界の目標は当然男子7人制世界選手権(チェコが保持)と女子7人制世界選手権(ハンガリー保持)であろう。

7人制を制さなければ、今や世界の王者とはいえないのである。再び王国の名をゆるぎないものとするためこれからはますます積極かつ強力な体制が推進されるであろうが、来日西ドイツチームがそうした使命の一翼を担っていることも明らかである。それだけに彼らがどのようなプレーを展開するかいっそう興味深いものがある。

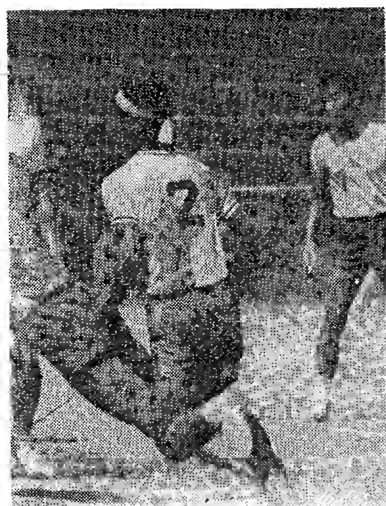
【杉山 茂】



2



3



5



6



8

i　敗　る

:会準々決勝　1967．8．6

)好守　　　　3　広の攻撃

:に追う　　　6　勝利の瞬間

)だ



1





4





7

桜　台　高

第18回全日本高校選手権大

1 桜台の攻撃	2 広GKの
4 桜台追撃	5 桜台県命
7 戦いおわって	8 勝ったの

明星、圧倒的な強さ
女子は花巻南が初優勝

第18回全日本高校選手権大会は8月2日から8日までの一週間、炎天下の和歌山市桐蔭高校グランドで開かれた。男子52、女子50と史上最大の大会となった。
各校の実力が接近し、破乱が各所に見られたが、男子では明星高が広高を破り2連勝。女子は花巻南高が室蘭商業を破り初優勝した。

男子

▼男子一回戦

岐山高（岐阜）17（6―2・11―3）5 城北高（徳島）
岐山高は早川を中心とした攻撃で着実に加点し、順当な勝利を飾った（主審藤田）

浦和市高（埼玉）23（10―3・13―4）7 鰺ケ沢高（青森）
浦和市高の一方的なゲーム展開であった。特に速攻の差が得点差をつける因となった（主審川口）

名城大附（愛知）12（6―3・6―2）5 関東学院（神奈川）
名城大附の反則ぎみの巧みなディフェンスに関東は攻撃が成功しないままおわった（主審井上）

滝川高（兵庫）17（4―6・13―6）12 古川工高（宮城）
後半になり、滝川は古川を軸とした速攻が決まり、試合を決定した（主審平田）

桐蔭高（和歌山）14（5―4・9―7）11 紋別北高（北海道）
前半は桐蔭のロングに、紋別がポストプレーで対抗したが、後半桐蔭の速攻で試合は決定した好ゲームであった（主審中西）

小倉工高（福岡）22（9―2・13―3）5 高田高（三重）
小倉の走力、シュート力が勝利を手中にした（主審井上）

清水市商（静岡）12（8―2・4―8）10 足利工高（栃木）
前半は清水商の速攻、後半は足利の速攻という形の試合であった。足利の粘り、作戦は立派といえよう（主審平田）

添上高（奈良）17（9―5・8―5）10 大石田高（山形）
実力的には大差なかったが、大石田のミスが点差を拡げる因となった（主審佐野）

中央大附（東京）20（10―2・10―10）12 洛星高（京都）
洛星は前半攻撃の芽が摑めず、苦労したが、後半サイドから良く攻めた。前半の失点は最後まで響いた（主審中西）

塩山商高（山梨）13（5―3・5―7・2―1・1―1）12 三国ケ丘高（大阪）
延長にもつれこむ大接戦となり延長戦終了1・5分前まで同点でありやっと塩山がふりきった。両チームとも、シュートに決定力が見られなかった（主審岡前）

倉敷商高（岡山）10（8―5・2―4）9 麻生高（茨城）
前半麻生はチャンスをミスし、それを得点に結びつけられた。後半追ったが、疲れと暑さで追いきれなかった（主審前田）

追手前高（高知）18（9―3・9―4）7 都城工高（宮崎）
宮崎は守備が悪く、そのすきをつかれ得点を重ねられた（主審上田）

神代高（東京）16（7―2・9―5）7 国加高（長崎）
国加は速攻のチャンスをもちながらスタート悪く、得点できずにおわった。神代の動きも迫力がなかった（主審川口）

横浜東高（神奈川）16（7―8・9―4）12 松江工高（島根）
前半はシーソーゲームであり、後半15分までそれが続いたが、横浜が速攻で勝った（主審前田）

前橋商高（群馬）14（5―3・9―5）8 鶴崎工高（大分）
前橋はカットからの攻撃が良く決った。鶴崎はもてる力を発揮せずに終った（主審狩野）

佐原高（千葉）12（6―5・6―6）11 小禄高（沖縄）
佐原は小禄の速攻に苦しみながら、辛勝した（主審佐藤）

広高（広島）23（12―6・11―9）15 聖光学園（福島）
広高の早い動きに聖光がついてゆけずにおわった（主審日野）

柏崎工高（新潟）20（6―6・14―6）12 鹿児島高（鹿児島）
前半は一進一退、後半は柏崎の速攻がよく決った（主審門前）

松山北高（愛媛）19（9―1・10―3）4 境港工高（鳥取）
松山はGKの球出しが速攻につながり大差となった（主審佐藤）

高島高（滋賀）13（4―4・9―5）9 盛岡一高（岩手）
前半は両チームとも、カットが多かった。後半は盛岡のミドルが決らず、それが高島の速攻に結びついた（主審日野）

▼男子二回戦

明星高（東京）22（11―0・11―2）2 岐山高
明星は攻守ともに優勝候補らしい試合ぶりを見せた（主審藤田）

上田高（長野） 没収試合 浦和市高
選手の不正出場のため没収試合となった。

名城大附 21（10―4・11―9）13 滝川高
元気溢れる試合を展開した。名城大附が前半の速攻による得点を生かし、勝利を握った（主審平田）

湯沢高（秋田）17（7―4・10―5）9 桐蔭高
湯沢は桐蔭の守備の乱れをつき着々加点。後半も速攻が実り、三回戦に進んだ（主審井上）

小倉工高 24（11―8・13―8）16 坂出工高（香川）
ラフプレーが多く、その点の反省を望みたい。ボールへの執着心に勝った小倉の勝利（主審狩野）

添上高 17（9―12・8―3）15 清水市商
両チームともチームプレーに徹していた。添上は基本プレーに忠実であったことが勝因（主審中西）

中大附高 18（8―7・10―9）16 岩国工高（山口）
好ゲームを展開した。岩国は終了5分前で体力がつき、2点差がついた（主審井上）

熊本市商（熊本）12（4―3・8―4）7 塩山商高
技術面では、さして変らぬ両校であったが、ファイト、体力一特に走力一面で熊本市商に一段とすぐれたものがあった（主審川口）

倉敷商工 16（8―5・8―8）13 佐野工高（大阪）

倉敷の荒い守備に佐野はもたつき、前半の点差が開いた。佐野は後半追いあげ、同点としたところで力つきた（主審佐野）

氷見高（富山） 15（5－2　10－4）6 追手前高

後半中頃からの氷見の速攻で大勢は決っした（主審岡前）

横浜市東高 13（7－3　6－7）10 神代高

横浜は前半細かい動きで、得点し、後半の神代の追いあげを押え勝った（主審前田）

前橋商高 10（4－4　6－1）5 金工大附（石川）

前半は互いに自滅していた。後半前橋は敵のミスを得点に結びつけ勝った（主審上田）

和歌山商（和歌山） 20（7－3　13－3）6 佐原高

佐原は無気力で、和歌山の元気なプレーに圧倒され、一方的なゲームになった（主審門前）

広　高 16（4－4　12－10）14 柏崎工高

前半どちらも決め手がなかった後半柏崎の守備の乱れを広がつきふりきった（主審日野）

松山北高 12（4－5　8－6）11 若狭高（福井）

両チームとも雑なプレーが多かった。後半15分ぐらいから緊迫した試合となり、終了10秒前のシュートで決った（主審岡前）

桜台高（愛知） 23（11－4　12－5）9 高島高

立ちあがり高島は2点を先取したが、そのあとはどうすることもできずに敗れた（主審上田）

▼男子三回戦

明星高 18（8－0　10－4）4 上田高

上田は明星の堅陣を破れずにおわった。明星も上田のGKの好プレーにとまどったが、着々加点をして、勝った（主審藤田）

湯沢高 16（7－8　7－6　1－1　1－0）15 名城大附高

ゲームはシーソーゲームの形をとり、タイムアップ寸前の湯沢の速攻で決ったが、両チームとも元気がなく、攻撃に力が不足していた感があった（主審中西）

添上高 20（9－10　11－3）13 小倉工高

前半は一点を争うシーソーゲームで盛り上った。後半に入ると添上は岡田を中心に良く速攻を出し得点を重ねた。小倉は速攻にスピードがなく、それが敗因となってしまった（主審狩野）

中大附高 13（6－4　7－4）8 熊本市商

両チームとも異常なファイトで肉弾的防禦をしていたのは感心しない。内容的には良いものがなかったが、中大附が走り勝ったというゲーム（主審上田）

氷見高 23（14－3　9－5）8 倉敷商工

倉敷に前日のような鋭さがなくその間、氷見はミドル、カットインなどで加点を、前半で試合を決めた。後半は氷見がポストを加え、一方的に押しまくった（主審井上）

横浜市東高 11（4－6　7－4）10 前橋商高

一見シーソーゲームに見えるが、内容的には良くなかった。横浜がポストを前橋はゴール前フリースローを生かしていたが、動きは良くなかった（主審佐野）

広　高 14（3－5　7－5　2－0　2－2）12 和歌山商

前半は和歌商のパスワークが効を奏したが、次第にミスが目だちはじめた。そのミスを広がつき、よくコンビを生かし走った。延長後は和歌商は体力の限界になったのか、守備が乱れ、広に加点され、ふりきられてしまった（主審岡前）

桜台高 23（10－2　13－5）7 松山北高

技術的にも体力的にも数段優る桜台の圧勝におわったが、桜台は中頃点差のためか活気をなくし、剛快なプレーが影をひそめたのは残念である（主審門前）

▼男子準々決勝

明星高 21（13－1　8－8）9 湯沢高

超高校級の体力、技術をもっている明星は全員ムラなく走り、正確なパスワークと強力なシュートで着々加点した。特に氷海のリードとGK原田の好守は光っていた湯沢は後半佐々木吏、高橋栄などの活躍と7MTで最後まで健斗したのは気持良かった（藤田）

得	【湯沢】		【明星】	得
0	加藤	GK	原田	0
0	由利		武井	0
2	高橋	FP	永海	1
1	八柳		荒井	5
5	佐々木		宮沢	0
0	佐々木		佐々木	3
1	藤原		内藤	1
0	高橋	（主審井上）	高梨	6
0	高橋		内田	5
0	鈴木		上平	0
0	八柳		吉岡	0
9	（3）	7MT	（1）	21

中大附高 19（7－5　12－4）9 添上高

得	【添上】		【中附】	得
0	逢坂	GK	佐々木	0
0	中田		古風	0
4	中岡	FP	岩村	0
2	寺門		大田	5
0	桜井		佐藤	1
2	岡田		花輪	1
1	中田		小井土	5
0	西村	（主審中西）	森永	4
0	大西		塚田	2
0	片岡		鈴木	1
0	奥川		今関	0
9	（2）	7MT	（2）	19

中大附はロング、速攻に威力をもち、GKの巧守とあいまって、大きく添上を引き離した。添上のGKもよく守り、シュートを速攻に結びつけていたが、FPのミスで得点にならなかった。大きく離されるからも健斗した添上は賞されよう。中大附はパスが止ることとシュートミスをなくすことが、今後の課題となろう（中西）

氷見高 15（8－4　7－5）9 横浜市東高

両チームとも同形のチームであり、小さな動きがめだったがミスも多かった。前半は氷見は大野らの活躍で点差を拡げた。後半に入り、氷見が退場二人を出した間に横浜もよく迫ったが、その後の氷見の大野のリードによる攻撃の前に敗れた（上田）

得	【横浜】		【氷見】	得
0	荒牧	GK	矢田部	0
0	小泉		坂下	0
2	水島	FP	吉本	2
1	阿部		浦野	3
3	山本		高橋	0
1	高橋		吉野	4
0	林		大野	4
2	加藤	（主審上田）	釣井	2
0	小林		高野	0
0	横山		大野	0
0	飯田		山口	0
9	（2）	7MT	（2）	15

桜台敗れる！

広　高 15（6－4　9－8）12 桜台高

得	【広】		【桜台】	得
0	和田	GK	吉田	0
0	沖野		竹島	0
2	磯道	FP	水野	1
7	渡辺		清水	0
1	下茂		飼沼	1
3	大島		森	5
2	山本		新実	3
0	向井	（主審門前）	宮松	2
0	阪田		松井	0
0	原田		杉浦	0
0	井上		堀田	0
15	（1）	7MT	（2）	12

優勝候補の桜台が敗れた。前半ロングシュートがそれ、またシュートが広のGK沖野によってしばしばとめられてはいたが、桜台は押し気味に試合を進めていた。広は渡辺のカットからの速攻、サイド、ポストなどの攻撃をおりまぜ得点していた。後半桜台は追う立場になり、主として森、新実のミドル、カットインで11分30秒には

9―9と追いつき、ここで主導権を握るかと思わせたが、その後10分近く、両軍とも得点なく、20分を過ぎ、広のカットからの速攻に2点を連取され、更にはカットに出たところをポストに入れられ、点差を開かれてしまった。終了間際に見せた新実のシュートがより早く出ていたなら、試合はどうなったか判らない。広の走り勝ちファイト勝ちを賞すべきであろう。接戦になっても憶することなく淡々と試合をすすめた広の態度は立派であった（藤本）

明星・広決勝へ

▼男子準決勝

明星高 27（13―2、14―3）5 中大附高

【中附】（主審 狩野）

	選手	得
GK	佐々木	0
GK	吉岡	0
FP	岩村	2
FP	太田	1
FP	佐藤	0
FP	花輪	0
FP	小井土	1
FP	森永	0
FP	塚田	1
FP	鈴木	0
FP	今関	0

【明星】

	選手	得
GK	原田	0
GK	武井	0
FP	永田	2
FP	荒井	7
FP	佐々木	6
FP	内藤	5
FP	高梨	1
FP	内田	1
FP	上平	2
FP	吉岡	2
FP	宮沢	1

27（3）7MT（1）5

東京同士の対戦でお互いに相手の手の内を知っており、一進一退のゲーム展開で始ったが、明星は中附のポストに入れるボールをカットし、速攻で点差を開いた。中附は明星の固いディフェンスを攻めあぐみロングを連発したが、いずれもはばまれてしまった。ロングを打つにしても、もう少しタイミングを研究したらと思われる。明星は全員良く基礎練習を積み、正確なパスワークをもっており、立派な試合だった（狩野）

広高 20（8―8、12―11）19 氷見高

【広】（主審 佐野）

	選手	得
GK	和田	0
GK	沖野	0
FP	磯道	1
FP	渡辺	3
FP	下茂	7
FP	大島	7
FP	山本	2
FP	向井	0
FP	阪田	0
FP	原田	0
FP	井上	0

【氷見】

	選手	得
GK	矢田部	0
GK	坂下	0
FP	吉本	4
FP	浦野	2
FP	高橋	1
FP	吉野	3
FP	大野	9
FP	釣井	0
FP	高野	0
FP	大野	0
FP	山口	0

19（1）7MT（1）20

前半15分までは氷見のペースで5―1とリードしたが、広は前日までの接戦に勝った経験を生かし8―8のタイで前半を終了した。後半もやはり、シーソーゲームを続けたが、前半とかわり、常に広が先行していた。特に10分から20分の大島の4点、20分すぎてからの下茂の3点は効果があった。全般的に見ると、両校の攻防は消極的であり、この点は今後の課題となろう（佐野）

明星圧倒的強さ 28点をあげる

▼男子決勝

明星高 28（12―3、16―6）9 広高

大会初出場の広には地元より急拠かけつけた応援団があり、優勝戦らしい雰囲気の中に試合がはじまったが、明星が大差をもって、

【明星】（主審 中西）

	選手	得
GK	原田	0
GK	武井	0
FF	氷海	1
FF	荒井	4
FF	宮沢	0
FF	佐々木	4
FF	内藤	10
FF	高梨	6
FF	内田	2
FF	上平	1
FF	吉岡	0

【広】

	選手	得
GK	和田	0
GK	沖野	0
FF	磯道	0
FF	渡辺	2
FF	下茂	6
FF	大島	0
FF	山本	1
FF	向井	0
FF	阪田	0
FF	原田	0
FF	井上	0

9（3）7MT（0）28

広を破り、一年連続優勝を飾った。内容的にも、技術的にも、数段明星が優り、チャンスをつかみ、それを必ず生かし、得点するソツのない攻撃。シュートは確実であり、本大会最高のチームと云える。

勝負は終始一貫明星のものであり、広はいかんともなしがたかった。広は大差にもかかわらず、最後まで試合を捨てずに、よく戦った。明星が2度退場者を出している時にもう少しそれを生かす工夫がほしかったし、シュートミスがなければ、より盛あがった試合になったであろうと惜しまれる。

速攻の明星に対して、徹底的に遅攻で攻めた意図は良かったが、明星の固いバックの壁はどうしようもなかった。広の決勝進出を高く評価したい（中西）

女子

▼女子一回戦

室蘭商高（北海道）7（4―2、3―4）6 菊池農高（熊本）

室蘭のポストプレーが成功し、加えて姫野の活躍、GKの好守もあり、実力を出しきれない菊池を下した。（主審岡本）

小松市女（石川）6（3―1、3―1）2 都立二商（東京）

盛りあがりのない凡戦であった両軍ともゲーム運びが悪く、基礎技術の不足がめだった（主審藤原）

大垣南高（岐阜）6（5―3、1―1）4 加治木高（鹿児島）

大垣南は加治木のディフェンスをゆさぶったが、得点はあまり増えなかった。加治木の守備に積極性が欲しかった（主審嶋田）

昭和学院（千葉）15（4―3、11―3）6 都城泉丘（宮崎）

前半は凡戦。後半昭和が7MTを決め勝った（主審上田）

涌谷高（宮城）20（12―1、8―2）3 生駒高（奈良）

涌谷が圧倒的強さを見せ、生駒を破った。生駒は基本技術の向上を図る必要がある（主審岡本）

貴和高（和歌山）6（2―2、4―3）5 高知西高（高知）

同型チームの対戦。1点を争う好ゲームであったが試合経験に勝る貴和の勝利（主審藤原）

高蔵女高（愛知）12（5―0、7―1）1 神崎農高（佐賀）

高蔵が技術的・体力的な差を見せ、一方的に得点を重ね、勝利を手中にした（主審門前）

明徳商高（京都）5（3―1、2―3）4 川崎市高（神奈川）

明徳のカットからの速攻が試合を決めた。川崎は動きが鈍くそれが敗因（主審嶋田）

山陽女高（広島）15（7―2、8―2）4 住吉学園（大阪）

山陽は多彩な攻撃で着々加点、住吉は無策に山陽の得点を許して敗れた（主審奥村）

三本松高（香川）7（2―0、5―1）1 米沢女高（山形）

全般に動きの少い試合であったカット、速攻が良く決った三本松の順当な勝利（主審中井）

高岡女高（富山）11（6―2、5―3）5 吉原高（静岡）

高岡は速攻、ポストプレー、ロングシュートと多彩な攻撃をくりひろげ一方的勝利（主審越智）

小禄高（沖縄）14（6―3、8―7）10 高島高（滋賀）

小禄はポストプレーによって自己のペースを摑み、高島の反撃を押え勝った（主審高倉）

新居浜商（愛媛）17（6―3、11―0）3 真備高（岡山）

技術・体力とも格段の差がありその差が得点差になって表れた。特に攻撃で差は大きい（主審奥村）

四日市高（三重）10（4―3、6―3）6 徳山高（山口）

前半はおいつおわれつ接戦。後半は体力に勝る四日市が速攻を中心に加点した（主審中井）

名古屋女商（愛知）15（2―3、13―1）4 柏崎常盤（新潟）

前半は互格、後半は名古屋の体力を生かした速攻でたちまち差は開き一方的になった（主審高倉）

麻生高（茨城） 9（5―3、4―5）8 大分東高（大分）

先行する麻生を大分が追う形であり、終了寸前の7MTを麻生が決め、勝った。前評判の高かった大分東は緒戦で敗れた（主審狩野）

桜水商高（東京） 9（2―4、7―3）7 寝屋川高（大阪）

前半は寝屋川、後半は桜水のペースであった（主審清水）

深谷女商（埼玉） 11（4―3、7―3）6 明善高（福岡）

前半はシーソーゲーム、後半は深谷のペースであった。深谷は日頃の練習が実った（主審門前）

▼女子二回戦

室蘭商高 6（1―1、5―4）5 和洋女高（秋田）

室蘭は前日に続き、強敵を倒した。室蘭は要所に姫野が決めた。特にタイムアップの勝ちこしフリースローは劇的な幕切れであり、球史に残ろう（主審岡本）

小松女高 15（6―1、9―0）1 池田高（徳島）

実力差ははっきりしており、池田は辛うじてシャットアウトをまぬがれた（主審佐藤）

大垣南高 4（2―2、2―2、0―0、0―0）4 昭和学院

大垣の抽籤勝ち

試合は単調に終始した。大垣はセット、昭和は足を生かすことが課題（主審中西）

涌谷高 9（3―1、6―3）4 前橋市女（群馬）

涌谷は迫力ある攻撃によって、危げなく勝った（主審岡本）

松江市女（島根） 4（2―0、2―1）1 貴和

一応動くが、両チームとも得点をあげることができなかった。基礎練習が必要（主審越智）

小高農高（福島） 9（5―1、4―3）4 高蔵女商

小高は永岡を中心によく走り、加点した。高蔵は中心になる選手が欲しい（主審前田）

小諸商高（長野） 8（4―3、4―4）7 明徳商高

互格の接戦であった。森本1人の明徳に小諸は清水、吉沢、志摩のコンビで対抗し、勝利をつかんだ（主審嶋田）

山陽女高 6（3―3、3―1）4 夙川学院（兵庫）

山陽は力みすぎていたが、後半もち前の実力を出し、速攻によって勝った（主審門前）

栃木市女（栃木） 16（10―0、6―2）2 三本松高

栃木の多彩な攻撃と三本松の単調な攻撃がそのまま得点差を生んだ（主審清水）

高岡女高 7（2―2、3―3、1―0、1―0）5 福井商高（福井）

両チームとも決め手がなく、単調な攻撃をくりかえすのみであり高岡が辛勝した（主審奥村）

小祿高 7（2―1、5―3）4 日川高（山梨）

小祿が自己のペースを守りきり二勝をあげた（主審中井）

新居浜市商 16（9―1、7―2）3 和歌山商（和歌山）

新居浜が速攻で試合を決めた。和歌山は健斗したが、実力差はいかんともなし難かった（主審高倉）

四日市高 9（6―4、3―4）8 六郷高（秋田）

接戦の様相は呈しているが、技術的には四日市がはるかにすぐれていた。両校ともこれからの多くの課題をもっている（主審奥村）

名古屋女子商 8（6―1、2―5）6 麻生高

両校のポストプレーの対決。名古屋のコンビがやや勝り、勝利を得た。好ゲーム（主審藤原）

桜水商高 13（5―3、4―6、3―0、1―0）9 島原農高（長崎）

実力は互角、延長に入ってから桜水は速攻がさえた。精神力の差といってよかろう（主審平田）

花巻南高（岩手） 12（4―1、8―1）2 深谷女高

好試合が期待されたが、深谷が気力負けしたため、一方的ゲームに終始した（主審高倉）

▼女子三回戦

室蘭商高 6（2―2、4―2）4 小松市女

両チームとも前半は戦力をフルに発揮し・互格の戦い。後半に入りセットが得意の室蘭は要所々々に姫野を生かして、リードを奪いそのまま押しきった（主審平田）

涌谷高 6（4―4、2―2、0―0、0―0）6 大垣南高

涌谷抽籤勝ち

涌谷山口のロングと大垣北川のリードによるオープン攻撃との対抗、好ゲームとなった。涌谷が勝利を握るかと思われたが、北川によって加点し、延長にもちこむ。延長戦は疲れ、内容の乏しいものにおわった（主審岡本）

小高農高 14（9―2、5―3）5 松江市女

練習量の差を如実に示す一戦。松江は健斗したが、スピード不足と基礎技術が弱いことはいかんともしがたく、一方的に小高に走り負けてしまった（主審清水）

山陽女高 10（6―6、4―2）8 小諸商高

前半は全く互格、後半になり山陽はボールを良く廻し、得点を重ねた。小諸もシュート力はかなりのものを持っているが、セットの攻撃がまずかった（主審前田）

栃木女高 7（5―2、2―2）4 高岡女高

試合初頭から激しいアタックで試合らしさが失われることがあった。ルーズボールを得点に結びつけた栃木が勝った。正攻法の得点がほとんどなかったのは一考を要する（主審奥村）

新居浜市商 11（4―0、7―1）1 小祿高

前半は小祿のボールキープで、新居浜の攻撃は思うにまかせなかったが後半は新居浜のロングが決り、一方的な試合になった小祿高の攻めはもう一工夫（主審佐藤）

名古屋女商 8（4―2、4―2）4 四日市高

同タイプのチーム、幾分走力に勝る名古屋が勝利を得た。点差ほどには実力の差はなく、好ゲームであった（主審高倉）

花巻南高 7（2―1、5―2）3 桜水商高

前半は桜水の好守と花巻の拙攻で得点が少なかったが、後半に入ると花巻はGKの好パス・三浦の好リードで加点し、押しきった。GKの活躍がめだった（主審中井）

室蘭商快進撃！

▼女子準々決勝

室蘭商高 8（2―2、6―2）4 涌谷高

【室蘭】	得		【涌谷】	得
河村	0	GK	佐々木	0
高田	0	GK	高橋	0
阿部	1	FP	庄子	1
小田川	1	FP	山口	3
真田	0	FP	佐々木	0
富岡	3	FP	高橋	0
姫野	1	FP	林	0
阿保	1	FP	鈴木	0
珍田	0	FP	小山	0
大沢	0	FP	門脇	0
後藤	0	FP	栗田	0

（主審 川口）

4（3）7MT（0）8

ロングシューターを主軸とする同形のチーム、互いにポイントゲッターをマークし、前半は接戦となる。後半室蘭はサイド攻撃をかけ、守備を拡げ、ロングシューターを活用したのに対し、涌谷は終始変らぬペースで試合をし、自滅

してしまった。両チームと練習量も豊かであり、技術もすぐれているので、より変化のある攻撃を望みたい。

室蘭は一回戦の菊池農、二回戦の和洋女高、三回戦の小松市女、そしてこの涌谷と次々に強豪をなぎ倒して準決勝に進出した。しかも全試合接戦で破っている点大したものである（川口）

山陽女高 12（9—2 3—6）8 小高農高

得	【小高】		【山陽】	得
0	管野	GK	吉川	0
0	松本	GK	三上	0
0	木幡	FP	坂田	0
1	永岡	FP	才崎	4
4	日下	FP	横正	0
3	伊賀	FP	池田	3
0	古佐原	FP	金江	0
0	池沼	FP（主審 奥村）	本地	4
0	杉	FP	平石	0
0	杉	FP	七瀬	1
0	新開	FP	牧野	0
8	（0）	7MT	（0）	12

山陽は前半うまい攻撃で着々と加点。2〜3人のコンビプレーで小高のディフェンスの甘さをつき才崎、本地のフェイントプレーで加点し、前半で勝負を決めた。後半小高は連続4点を5分間であげ更に1点を16分に追加し、2点差と迫ったが、山陽に2点をとられ4点差となり、万事窮した。後半小高のGKになった松本の好守が光った（主審奥村）

新居浜市商 3（1—1 2—0）1 栃木女高

前半両チームとも2—4の浅いデイフェンスと早いつぶしで得点のチャンスがなく、栃木は刑部がサイドから先取点をとる。新居浜タイムアップ寸前山本美が決め、タイで前半を終る。後半9分に再び山本美が決め、新居浜リード、栃木はプレスに出、これが成功して新居浜は追加点がとれなかったが19分GKからの好パスを中野が決めて、試合は決った。新居浜のシュート力の勝利（岡前）

得	【新商】		【栃木】	得
0	森	GK	長島	0
0	西条	GK	羽金	0
0	加藤	FP	永田	0
0	山本	FP	川田	0
2	山本	FP	新村	0
1	中野	FP	日向野	0
0	東	FP	関口	0
0	金村	FP（主審 岡前）	船田	0
0	田中	FP	渡辺	0
0	小原	FP	刑部	1
0	大塚	FP	牛久	0
3	（0）	7MT	（0）	1

花巻南高 11（8—3 3—5）8 名古屋女商

得	【名女】		【花巻】	得
0	中谷	GK	坂野	0
0	村瀬	GK		
3	朝倉	FP	三浦	5
0	中島	FP	川井	2
0	鹿島	FP	関	4
1	磯村	FP	高橋	0
0	小島	FP	山口	0
0	藤川	FP	岩間	0
1	中島	FP（主審 狩野）	勝田	0
1	伊藤	FP	中島	0
2	楠田	FP	箱崎	0
8	（0）	7MT	（1）	11

花巻はカットからの速攻が効を奏し、前半着々と加点した。またエリヤ前の切りこみが良くチャンスを作り、チャンスには確実に得点した。一方名古屋はポストプレーのみの攻撃で変化がなく、後半朝倉らの活躍で追いあげたが、速攻のでないことも災いして、ついに追いつけなかった（狩野）

室蘭商・花巻南決勝へ

▼女子準決勝

室蘭商高 9（5—3 4—2）5 山陽女高

得	【山陽】		【室商】	得
0	吉川	GK	河村	0
0	三上	GK	高田	0
0	坂田	FP	阿部	0
2	才崎	FP	小田川	0
0	横正	FP	真田	0
0	池田	FP	富岡	0
0	金江	FP	姫野	9
2	本地	FP	阿保	0
1	七瀬	FP（主審 岡本）	珍田	0
0	藤本	FP	大沢	0
0	牧野	FP	後藤	0
5	（1）	7MT	（1）	9

ロングの打ちあいで開始されたが、室蘭は右サイドのローリングから姫野にうたして、着実に加点した。これに対し山陽は左右に打ちわける姫野のシュートに防御策がなく、攻めてもゴール前に直進するだけで、コースをさえぎられてしまった。山陽は姫野のすぐれたシュート力とGK河村の好守に破れた感がある。姫野は良く9点（7MTを含む）を一人でたたき出した（岡本）

花巻南高 5（3—2 2—1）3 新居浜市商

得	【新房】		【花巻】	得
0	森	GK	坂野	0
0	西条	GK		
1	加藤	FP	三浦	2
0	山本	FP	川井	2
2	山本	FP	関	1
0	中野	FP	山口	0
0	東	FP	岩間	0
0	金村	FP	鎌田	0
0	田中	FP（主審 高倉）	中島	0
0	小原	FP	箱崎	0
0	大塚	FP	高橋	0
3	（0）	7MT	（1）	5

セットプレーを主体とする同形の攻撃法を持ったチームの対戦。攻撃に入るまでに時間を要するのは一考の必要がある。新居浜のディフェンスは荒く、四人の退場を出した。この間花巻が無策であったのはうなずけない。注意されながらサイドコーチが盛んに行なわれたのも反省すべきだ（高倉）

室蘭商ついに破れる

▼女子決勝

花巻南高 5（3—2 2—2）4 室蘭商高

得	【花巻】		【室商】	得
0	坂野	GK	河村	0
		GK	高田	0
3	三浦	FP	阿部	0
1	川井	FP	小田川	0
1	関	FP	真田	0
0	山口	FP	富岡	0
0	岩間	FP	姫野	2
0	鎌田	FP	阿保	1
0	中島	FP（主審 上田）	珍田	1
0	箱崎	FP	大沢	0
0	高橋	FP	後藤	0
5	（2）	7MT	（0）	4

両チームともにボール廻しがシュートに続かず、切りこみもなく積極的な攻めを欠いていたが、多少花巻が押し気味に試合を進めていた。花巻はGKの好守と三浦の好リードで試合の主導権を握っていった。

室蘭は体力差が現れたのか、走る力がなく、ゴールエリア前の動きが悪く、従来の試合に比べるとペースが乱れていた。その結果、エース姫野が思うように活用できずに決勝戦で敗れた。

初日以来、菊池農、秋田和洋、小松市女、涌谷、山陽女といった各地の強豪をなぎたおして、スタンドをにぎわしていた室蘭もついに決勝戦で花巻南の前に敗退してしまった。しかしその健斗は誠に立派といってよいものがある。（上田）

編集部より

この雑誌が手許に届く頃には、西ドイツのチームが、空港に着いている頃であろう。全国で24試合、憶することなく、立派な試合をしてほしい。また渡欧した際にうけた歓迎のいくらかを返す機会にもなろう。大いに親善の実をあげるとともに、彼の地の技術を大いに学び、自己のプレーを高めていきたいものだ。

インターハイは明星と花巻南がそれぞれ優勝した。次代をになう若人が多く集っていた。これらの中から世界の檜舞台に多くの選手が巣だっていくことになろう。今号は西ドイツ来日特集としたため、連載もの一部を割愛した。編集後記もスペースがなく、このような所に進出してしまった。各地の記録に寄せられた記事も次号にまわさざるを得ないものも出てきた、よろしく御了承を。

次号には総合と西ドイツの試合の前半を特集していきたいと考えている。要望・叱正はどしどし編集部まで。（TS・F）

全日本教職員選手権

大阪イーグルス6連勝飾る

巧妙な試合運び、埼玉に制勝

第10回全日本教職員選手権は8月14日から3日間神戸市・中央体育館に全国から20チーム（棄権2）が参加して開かれた。

予想通り有力チームが順調に勝ち進み、名門イーグルスと新進埼玉教員の決勝となったが大阪イーグルスが試合巧者ぶりを発揮して快勝、大阪教員ク時代から通算6連勝（6回目）を遂げた。

▽1回戦（4試合）

山口県教員団 40（20―9、20―10）19 三重教員

埼玉教員 38（22―9、16―6）15 福井教員

茨城教員 32（17―10、15―16）26 新潟教員

香川教員 不戦勝 桑朋会（東京）

▽2回戦

大阪イーグルス 27（9―14、18―6）20 山口県教員団

京都教員ク 37（21―13、16―12）25 栃木県教員ク

愛媛教員 47（24―18、23―4）22 興東ク（奈良）

茨城教員 20（14―8、6―6）14 福岡教員

埼玉教員 41（25―6、16―13）19 神奈川教員団

スワロー兵庫 30（14―13、16―7）20 愛知教員ク

岐阜教員 33（19―11、14―9）20 香川教員

長崎教員 不戦勝 大阪市学校体育会

▽準々決勝

大阪イーグルス 55（31―1、24―4）5 京都教員ク

○…優勝候補の大阪は猛攻を続け、記録的大差のゲームとした。

茨城教員 40（22―12、18―7）19 愛媛教員

○…茨城は横瀬を中心に得点をあげ、前半15分10―1と開いて大勢を決めた。

埼玉教員 32（13―10、19―7）17 スワロー兵庫

○…接戦が予想されたが北井（世界選手権代表）松田、結城を中心とした埼玉攻撃陣がふるいスワローは北山の好技で散発的に得点を返したにとどまった。

岐阜教員 44（23―6、21―7）13 長崎教員

前半終了まぎわ、岐阜はスピードある攻撃で加点、長崎を突きはなした。

▽準決勝

大阪イーグルス 44（24―8、20―6）14 茨城教員

得	【大阪】		【茨城】	得
0	光島	GK	金子	0
0	島崎	GK	菅又	0
5	松尾	FP	横瀬	4
4	山崎	FP	塚原	0
7	奥浜	FP	岡田	3
5	東	FP	石井	2
4	木村	FP	高栖	2
2	井上	FP	新井	1
9	青木	FP	嶋田	2
5	北岡	FP	折原	0
3	加藤	FP		
44	（1）	7MT	（1）	14

（主審 狩野）

○…茨城の食い下りが期待されたが、大阪は立ちあがり青木（世界選手権代表）の連続ゲットであっさり主導権を握り、そのままのペースで茨城を押し切ってしまった。茨城もひるまず対抗したものの大阪の多彩な攻守には一歩も、二歩もゆずらざるを得なかった。

埼玉教員 17（10―5、7―8）13 岐阜教員

得	【埼玉】		【岐阜】	得
0	高橋	GK	大平	0
0	上久保	GK	衣斐	0
0	金子	FP	石榑	3
1	三技	FP	森川	1
3	松田	FP	杉本	3
7	北井	FP	豊島	3
1	多勢	FP	羽上田	3
2	結城	FP	犬飼	0
0	高戸	FP	高島	0
3	高田	FP	尾藤	0
0	遠藤	FP	大洞	0
17	（1）	7MT	（2）	13

（主審 中西）

○…好ゲームだった。先手はたえず岐阜がとり、後半3分9―8から3点をあげて12―8とした時はそのままのペースで進むかに見えたが、埼玉は後半15分をすぎてから本領を発揮して追いあげ20分13―13とタイ。そのあと結城（2点）松田、北井がゲットして鮮やかに逆転勝ちした。岐阜は後半13分以後無得点という不出来で自ら勝利を逃がした。

▽3位決定戦

岐阜教員 26（17―6、9―15）21 茨城教員

▽決勝

大阪イーグルス 21（13―7、8―5）12 埼玉教員

得	【太阪】		【埼玉】	得
0	島崎	GK	高橋	0
0	光嶋	GK	上久保	0
0	松尾	FP	金子	0
3	山崎	FP	三枝	2
0	奥浜	FP	松田	5
2	東	FP	北井	0
1	木村	FP	多勢	0
3	井上	FP	結城	2
7	青木	FP	高戸	0
4	北岡	FP	高田	3
1	加藤	FP	遠藤	0
21	（2）	7MT	（2）	12

（主審 藤原）

○…大阪は埼玉のエース北井を徹底的にマーク、この策戦が効を奏し、いかにも試合巧者らしい試合ぶりで連続優勝をとげた。

両チームともうまくチャンスを活かしあい一進一退。前半終了まぎわ大阪青木が7MT2本決めて楽な立ち場になった。

後半は、大阪が押し気味。埼玉は16分8―10としたまでそのあと7点をつづけさまに失い勝負が決まった。決勝らしい緊迫した好試合といえよう。

福井国体は10月1日開幕

来年の第24回国体（福井県高浜町）は例年より会期を早め10月1日から開かれるため、日本協会では、夏の各選手権や国体予選などの日程をくりあげるよう各組織へ通達することになった。

球界パトロール

苦境（右手指4本切断）を克えた根性

～見習うべき山原啓司（佐野工）君の斗志～

○……和歌山で開かれた今年のインターハイは、炎天下で若さにあふれた激戦をつづけたが、なかでも利き腕の右手指4本を切断しながらみごとなプレーを見せた佐野工（大阪）主将・山原啓司君の敢斗ぶりには多くの賞讃の言葉が集められた。

○……山原君は、昨年2年生の時すでに盛岡のインターハイと大分国体に出場、体格にはめぐまれないがキビキビしたプレーで佐野工躍進の原動力となり、最上級生となった今シーズンの成長が大いに期待されていた。ところが、予期せぬ不運がおそった。

昨冬の休みにチームメートとともにアルバイトに行ったところ機械にはさまれ右手の指が親指を残して4本を根から切断してしまったのである。

その瞬間彼の頭の中にはハンドボールのことがひらめいた。「あれほど打ちこんだハンドボールがもう出来ない……。」

○……普通の人間なら涙をのんでハンドボールをあきらめるであろう。それどころか、日常の生活さえも不安になるところだ。

しかし、彼のハンドボールに対する情熱と根性は己に負けることなく左手に希望を託した。治療のかたわらハンドボールをつづけたい一念は左手でボールを握り、投げる練習をくり返した。

そして今春の新人大会ではみごとにパスを送り、シュートを打てるまでになったのである。

○……生来右利きの彼が、わずか二ヶ月足らずで、完全なサウスポー（左利き）に変ることは雑しいぎこちなさが感じられるのはムリからぬことだ。

だが彼の不屈の根性は練習に練習をつみ重ねたすえ強力なシュート力を生み、ポストにボールを送りこむ巧妙なハンドリングを生んで、夏のインターハイ予選では大阪一のプレイヤーという定評をかち得るまでになった。

しかも、チームは今年もインターハイ出場を果たし、和歌山に駒を進めたのである。

山原君のこの旺盛な斗志、気力こそ高校生は見習うべきものであり、今夏のインターハイを飾ったもっとも明かるい話題であった。

彼の苦境を克えた根性とその技術に対して多くの就職の勧誘が寄せられたと聞くが、東京で実業団チームを持つ三景KKへの入社が決まった。

山原君の前途に幸と栄光が待ちうけていることを祈りたい（M）

【写真は不屈の斗志でみごとなプレーを見せた山原啓司君】

—全国スポーツ少年団大会—

初の"ハンドボール実技"指導をおえて



第5回全国スポーツ少年大会は7月26日から31日までの6日間山梨県本栖湖の日本スポーツ少年団本栖湖センターで行われた。今年から実技種目としてハンドボールも加えられ、日本協会から普及部の高橋健夫、宇津野年一、津島達郎の三氏と日体大、東京教大部員が派遣され指導にあたった。この大会でのハンドボール指導は初めての試みで、多くの成果をあげた。なお、この大会に参加したのは全国のスポーツ少年団リーダー約千百名で、実技は百十名づつの十分団に分け、ハンドボールはこのうち五分団（約五百五十名）が受講した。以下は、指導員各氏から寄せられたリポートである。（写真は日本スポーツ少年団本部提供）

積極的、意欲的な少年たち

今回の指導にあたっては、これまでの大会資料からの推測と、指導員同士の話し合いで、中学校のハンドボール普及度からみて初心者指導の立ち場をとろうと別表のような指導計画をたて、また三面のコートに指導員を〔A〕宇津野、小山、瀬島〔B〕高橋、平岡、浅野〔C〕津島、稲井、須賀と分けて指導することも決めた。

大会の日を追ってその指導の記録と印象を記したい。

7月27日 ハンドボールを実技会場は北富士高校で団員たちはバス輸送。初日のためか、各班とも団員の相互親密感がなく遠慮がちな面が多かった。

ハンドボール経験者は一割にも満たない。

練習するにつれて興味を示し、予期した効果をあげることができた。午後は指導団側のなれもあり時間の運びも手際よく、活発な活動を展開した。

翌日の「デイリー本栖」に掲載された少年たちの感想を掲げてみたい。

○新井清孝君（埼玉） 初めてハンドボールをやりました。帰ってからも続けたいと思います。試合には敗けたが楽しかった。

○中西憲司君（京都） 教科にハンドボールはなかったのでやはり初めて。それだけにずいぶん失敗も多かったのですが、それがまた楽しいことでありました指導の先生がたが若くて親近感がもてよかったです。

28日 午前中は都道府県別活動でスポーツ活動はなく気抜けの感じ、午後は女子分団、午前中むりな活動をした府県もあり疲労の色が強く、くわえて猛暑、最悪のコンディション。展開に難行したがしだいに回復、終了時には皆口を揃えて「ハンドボールは面白い」と答えてくれた。夜の打ち合せで、毎日のオリエンテーションの中に指導員と経験者をまじえて紅白ゲームをしてハンドボールの印象づけを行い、そのあと練習を始めることにしようと申し合せた。

29日 昨日同よう女子分団であったが、経験者を加えて紅白ゲームを行ったのち練習。展開は順調で、暑さと疲れのためダウンする少女もいたが成果は上々。

午後、最後の活動と意気ごんで出かけたが途中夕立ちに見舞われグランドに着いた時は一面みずうみ。やむを得ず屋上を借りることにして展開。9.7×20メートルのせまい屋上に特設のゴールでゲームしたが、少年たちもきわめて積極的、意欲的にわれわれの意を反映させてくれた。

特に、せまい場所、仮設のゴールでもこれだけ楽しいスポーツ活動ができるのか、とハンドボールのよさ・楽しさを充分理解してくれたのは嬉しいことであった。

これでハンドボールのすべての日程は終ったわけだが、指導員の一人としてこの大会に参加し、ハンドボールの普及には、まず小学校、中学校にその楽しさを滲透させ、ハンドボールのモットーである「誰にでも、どこでも出来る楽しいスポーツ」を理解させ、実践することであろうと考えた。

ともあれ、全国の少年少女たちとハンドボールをすることができたことは、指導員一同有意義な楽しい期間であったと話しあったことを御報告し結びとしたい（高橋健夫・日本協会普及委員）

全国スポーツ少年大会ハンドボール指導計画表

時間（分）	内容
0〜〜20	▽ハンドボールの概略について（宇津野年一・担当）
20〜〜〜〜50	▽ウォームアップ、補強運動、基本技、パス、キャッチ、ドリブル、シュート、フットワークの指導
50〜70	▽ゲーム
70〜〜〜100	▽ゲームの反省 ▽応用技、フォーメーション、速攻、遅攻、防禦の指導
100〜130	▽ゲーム
130〜〜140	▽反省及びクーリングダウン

ゲームを中心に指導進める

われわれは、スポーツ少年活動の中にハンドボール競技を深く滲透させること、そのために今回の指導において、ハンドボールのプレーを通して競技の楽しさ、面白さとスポーツの真価の体得、さらに身心鍛錬に欠かせないスポーツであることを認識してもらうことなどを指導目標として努力しましたが、その使命の重大さを痛感するとともに、その完遂に全員協力一致したのであります。

幸いにも、ハンドボール活動でのけが人、負傷者は一人もなく、大多数の男女団員が、異句同音「楽しかった」と語ってくれたことで、目的のいくらかが果し得たという気持ちであります。

しかし今回のハンドボール指導の会場が、本栖湖センターから遠く離れた北富士高校であったこと

を考えるとき、恐らくは今後スポーツ少年活動の中に必須種目として存続されるであろうハンドボール競技を、本栖湖センター内で実施できる専用コートを設置してもらうことを強く要望し、ハンドボール競技が、若い伸びざかりの団員の身心鍛錬に、加えてレクリェーション・スポーツとしても重要な役割をもっているスポーツであることを関係者に認識していただくことに一層の努力をしなければならないことを強く感じた一人であります。

本大会は午前六時の起床から始まり、午後七時の夜の集いまで、スポーツ活動を中心とし、ぎっしり詰った五日間のスケジュールで行なわれたものであり、ハンドボールはその中の必須種目の一つであります。

われわれは、各分団の一種目のスポーツ活動が、僅かに二時間半の短時間であることと、反面一団員にとっては長時間とも思われる規定時間を、どのように指導するかについて慎重に討議しました。その結果、ゲーム中心（実際には10分以内のゲームを二度行なった）指導案を作成して、実技指導を行なったのであります。

海抜千米近い高原とは言え、日中の暑さは都会地と何等変らず、スポーツ活動の苦しさも計り知れるものと思いますが、重なるスポーツ活動の緩慢なのも致し方ないと思われますが、ことハンドボール活動に関しては、本当に明るく、溌剌と動き回っていたように思われ、指導員の一員として内心よかったと胸撫でおろしたのであります。

このスポーツ指導を終えて、彼等団員達が幹となり、芽から芽、枝から枝に伸び、大きく普及して行く将来設計を脳裡に描くとき、その使命の一環をまっとうし得たこと、そして今後この面での指導のありかたをさらに深く研究しなければならないことを全国ハンドボール・マンに訴え反省記といたします（宇津野年一・日本協会普及委員）

胸うつまじめなマナー

３日間の指導で気づいたことは団員たちがほとんど未経験者であるということです。そこで私は指導のすべてに〝シュート〟を加え競技への親しみを増すようにしました。そのために、ゲームではたえずシュト数で相手を圧倒し団員たちは成功、不成功は別として、シュートを射つことを最高の楽しみとしてプレーしていたように思われます。

彼らは、私たちのいうことによく耳をかたむけ、言われたことを一生懸命やろうとする姿には胸をうたれるものがありました。

最後のゲームで、攻めては速攻を主体に遅攻もおりまぜ、守っても２・４のディフェンスで相手にぶつかりハンドボールらしい展開が短時間のうちに出来るようになったのも、きっと彼らの練習態度の結果だと思うのです。（浅野鉦世・東京教育大２年）

またとない普及の機会

最初のうちは、各分団ともおたがいに名前も判らず親密感に乏しい印象だったが、すぐにうちとけいかにもスポーツ少年らしいムードで毎日がすぎた。

「デイリー本栖」という機関誌に『初めてハンドボールをしたが帰ってからもつづけたい』とか『はじめのうちは失敗などする人が多かったがそれがまた楽しい』『指導の先生が若くて近づきやすかった』などという感想を書いてくれたのはうれしいことであった。

ハンドボールという競技を知ってもらうためにもこのようなチャンスを出来るだけ活用化し、その要求に応じられる指導者を送ることが必要だと思った。

指導員として参加した私だが、かえって多くの体験と勉強をつんで帰って来たような感じさえする（瀬島和則・日体大３年）

気持ちよい受講態度

さすが全国から選ばれたスポーツ少年団のリーダーの集いだけあって、初めてハンドボールに接する人が多かったにもかかわらず、つねに意欲的な態度でわれわれの指導をうけてくれたのは、気持ちがよかった。おかげでわれわれも楽しいキャンプ生活を送ることが出来、またこうした機会を有効にとらえて、一人でも多くハンドボールの理解者を得ることができるのなら幸だと思う（平岡秀雄・東京教育大３年）

試合中にルール解説

短時間の練習と指導ではあったが基礎的な技術やシュートなどを思ったより早く、しかもすなおに覚えてしまう団員が多く、かなりまとまりのあるゲームまで出来る状態にまで進めたのは収獲だったと思う。ルール面ではまだ理解し得ない面がみられたが、ゲーム中にその都度解説して進めることにした。ただ、会場が主会場からはなれていることと、コートやその他の設備に不安があったのは団員に気の毒であった。

しかし、初めてハンドボールに親しみ、興味を持った者が大多数であったことは、ハンドボール界の発展と普及のために大きな成果であったと思う。年少層への普及が大切であることを改めて痛感した（福井稔・日体大３年）

男女百十一校が参加

愛知県中学選手権

21年の伝統を誇る愛知県中学選手権は８月８、９の両日一宮市・北部中に地区予選を勝ち抜いた男女16校が参加して今年も盛況のうちに行われた。なお、今年の地区予選に参加したのは男子66、女子45校でこれは史上最高。

▼男子準々決勝
一宮北部中 15－12 港南中
上野中 19－13 豊橋南部中
三谷中 18－7 成岩中
春日井東部中 16－11 菊井中
▽同準決勝
一宮北部中 12－11 上野中
三谷中 13－12 春日井東部
▽同決勝
三谷中 12（7－7、5－4）11 一宮北部中

▼女子準々決勝
三谷中 16－7 高岡中
一宮北部中 8－6 刈谷南中
千秋中 15－8 蒲郡中
上野中 13－13 桜田中
▽同準決勝
三谷中 12－10 一宮北部中
千秋中 9－7 上野中
▽同決勝
三谷中 10（4－3、6－4）7 千秋中

苦しみの中の快楽

横手高校（秋田）

我県高校ハンドボールはインターハイなどで、大いに活躍している。しかるに我校の実力は現在が最低である。汽車通学生が多く、予備校化して来ている昨今、勉学と運動の両立を証明しようとする者が少ない事からの部員不足を見逃す訳にはいかない。しかし、裏山の松林に囲まれ広々とした芝生の片隅にあるハンドボールコートには、いつも十三人の部員が汗と土にまみれている。練習が終れば芝生にころがり夕陽を松の葉の間に見て、青春を謳歌し、ゆらぎつつある「剛健質朴」を体が冷えきるまで語らうのである。その時最後に部員は先輩の言葉「勝利を得ようとするならば、全ての快楽を捨てねばならない。その苦しみの中に見つけるのは勝利を得た時であろう。」を思い出す。苦しみには精神的と肉体的の場合があり現在は精神的なものに比重がおかれている。それゆえに、「こんなことをしている間に英単語の一つでも……」と言って退部していった者も多く悲観的にならざるを得ない。しかし、残った者たちこそは、努力と根性の固りであることは明らかであり、先輩の言葉を忠実に守り、みごとに勉学と運動とを両立させることを確信しているのである。（主将　益子　繁）



横　手　高　校

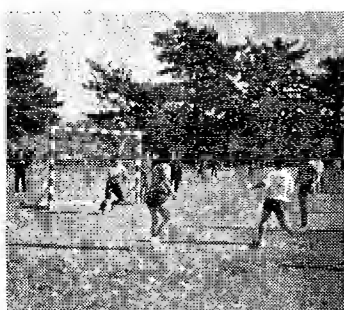
今年の抱負

嬉野商高（佐賀）

嬉野商業高校嬉商ハンドボール部の歴史は浅く二年目です。全九州ハンドボール選手権大会をきっかけとして嬉商ハンドボール部の名が初めて知れわたりました。すばらしい歴史を築くために後輩に頑張ってもらわなくてはなりません。三年生は残り半年の間に後輩をきたえ来年にそなえようと思っています。後輩といっても一年生ばかりなので守備、パスがうまくいきませんのでその点に特に重点をおいて練習したいと思います。来年は今年以上に頑張ってもらいます。そして再び九州大会に出場してすばらしい成績をあげて嬉商ハンドボール部いや嬉野商業高等学校をよりいっそう発展させてもらいたいと思います。それと共にあらゆる人々にハンドボールという競技を知ってもらい、レクレイションとして楽しんでもらいたいと思います。これが私たちハンドボール部員の夢であり今年の抱負でもあります。



嬉野商高



国府高

我ハンドボールチーム

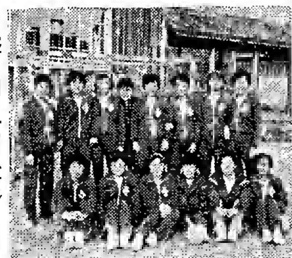
国府高（愛知）

私たちの学校のハンドボールは同好会として五年前に発足し一年後にクラブとして出発しました。第一期生の先輩たちは一年間で、春季東三河大会でみごとに優勝の座を獲得することができました。その後は決勝戦で、おしくも敗れ、今年は再び優勝の座を得、上位三校が東三河の代表として、インターハイ県予選に出かけて行き、ベスト4に入ることができました。試合で活躍した三年生は、一年生の指導にあたり現在は二年生が中心となってがんばっています。一年生は初心者ばかりなので、激しい運動に耐えたのは半数ほどでした。残った部員たちはシュートにも少しずつ力がはいるようになり、今ではやる気充分のようです。私たち二年生はまだ一度も試合経験がありませんが、三年生から受けついだ「根性」だけは、忘れないで、これからの練習に、正面からファイトでぶつかっていきたいと思います。（主将　竹本光江）

最後まで力を出し尽くせ

益田高〔女〕（岐阜）

私達は先生に「お前たちは、最後の最後までボールに対しての、観念がうすい」と常日頃言われます。また実際、先生の言われる通りだと思います。特に、試合遠征の場合など、それがてきめんに表わされてしまうのです。でもこのような問題が、起きる原因として、ふだんの練習が、直接試合につながっていないためだと、いえるような気がします。ですから、この問題を解決するには、まず各自が、きびしい練習の中から、最後までうち勝つことができるような、忍耐力を養うことだと思います。忍耐力と一口にいっても、なかなか容易には養えるようなものではありません。



益田高（女）

けれども私達にとっては、一番大きな悩みであるこの問題を、若いエネルギーによって、なんとか切り抜けたいと思わずにはいられません。私達にも意地があるのですから、いつかきっと試合が終わってから、皆、口を合はせて、「今日の試合ほど、自分の力を最後まで出しつくしたことがない」と言えるくらいに、今から苦しい戦いに、たち向かっていこう！若い力で……。（伊佐地清子）

猛練習のつみ重ね

宇部工高（山口）

「一位もビリも同じだ」これは元ニチボー貝塚の大松監督の言葉だが、この言葉を身をもって感じたのは昨年の中国大会の事でした優勝カップを持って喜ぶ相手チームを見て、紙きれ一枚の僕達は「優勝しなければだめなんだ二位ではだめなんだ」という事を誰もが痛切に感じ激しい闘志を燃したのです。それから毎日猛練習を積み重ね夏にはついに念願の国体中国代表の栄冠を勝ち取りました。国体はいろんな面で僕達の良き教科書となり又高校生活最大の思い出となりました。

新チームを結成して昨年制覇する事のできなかった中国大会優勝全国大会出場を目標にやって来たがその一つ全国大会出場はついに果す事ができなかった、しかし僕達はこの負けた試合の中から必らず何かを得て常に前進して行く様努力している。現在部員は21名、部員全員が高校に入って始めてハンドボールをやる者ばかり、だがこのハンデイを多くの先輩達が築いてくれた伝統を基盤にして毎日の猛練習の積み重ねでおぎない先輩達に負けない様今年も国体出場めざして頑張っています。（主将 山田哲夫）

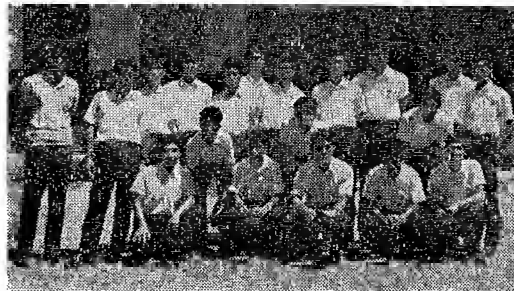


宇部工高

輝やかしい歴史の上に

天王寺高（大阪）

天王寺高校ハンドボール部は、昭和15年に創立されました。22・23・24年と国民体育大会に連続で優勝したこともあります。その後17年間、全国大会から遠ざかっていましたが、去年の夏、インターハイ大阪府予選に勝ち残り、そしてついに、インターハイ出場が決定したのです。我々には、この機会に全国制覇を、と意気込んで、試合にのぞみましたが、残念ながら一回戦で敗退、涙をのんで、大阪へ引き揚げてきました。他の地方のプレーと接して得た経験をいかして国体には、とがんばったにもかかわらず、大阪府予選決勝で敗れ、ついに出場権を得るまでには、いたりませんでした。



天王寺高校

現在我々は、練習場として、運動場を分割したその中の一画を、与えられていますが、コートは片面だけしかとれません。部員は、多くないけれども、先輩に来てもらったりして、充分練習できるようにしています。全部員は、あのインターハイ開会式の感激を、もう一度味わおうと、猛練習を重ねているのです。

〔思いで〕合宿

平安高校（京都）

今年四月の春休みに市内の花脊に合宿にいった。景色は美しい所だ。全員合宿は初めてだった。さほどつらくないが体が思うように動かない。午前中は宿舎の前の小学校のグランドでシュート、フェイント、フオーメーションなどであった。練習が終ると〃もうあかん〃と、お昼御飯を食べながら話していた。午後は四キロほど山向こうの中学校でダッシュターン、ノックキーパー練習など。四キロほどの道を走っても中学校が見えないのがつらかった。晩御飯がこれほどおいしく感じたのは、初めてだった。嫌いなたべ物を食べるようになった。全員ガンバッテ九日間を終えた。だが一番つらかったのは朝だれかが早く目をさまして〃もう六時半やど起きよ〃という声が聞こえるのがつらかった。この合宿でいろいろ学んだことを帰ってから試合に生かそうと努力している。こんどの夏も合宿をする。前の合宿よりももっとガンバルつもりだ。



平安高校

〃苦しかった部員不足〃

室蘭栄高校（北海道）

室蘭は北海道でも函館に負けぬ位ハンドボールが盛んです。そこに名門室商あり室蘭清水ありと我栄校の影はうすいものです。部員もこの春休みから始めたものばかりで一年以上していたのはわずか2・3人しかいません。練習を始めた頃は私と一年生が一人で練習と言ってもランニングとキャッチ位でした。そんなハンド部を見て一時はハンド部はクラブでないなどと言われたこともありました。そのうち一人二人と入部してくれ、新学期と同時に五人の一年生が入部してくれました。三年生は私一人で指導らしいこともできず試合に出ても、まれにシュートが入る位でした。現在は二年生六人が主体になって、八月までしかいないコーチにしごかれ頑張っています。目標だった高体連も7—10で負けましたが、今は9月に行なわれる国体予選で絶対に勝つことを目標に練習に励む毎日です。（主将 北 登美子）

連載第3回

ハンドボール球史

～最終回～

本誌第10号から連載した「日本ハンドボール球史」は今回をもって、ひとまず完結したい。永い間の御愛読を感謝するものである。

予定では、前回までの全日本高校編につづいて全日本総合室内編を掲載することにしていたのだが全日本高校選手権に関しては『全高体連ハンドボール部10周年記念誌』（昭和35年3月刊）『同15周年記念誌』（昭和39年8月刊）という二冊の記念誌によって、その大会史と記録は完ぺきに近く収録されており、改めてここで発表するまでもないため、予定を変更した次第だ。

高体連関係は全日本に限らずブロック大会などの記録や資料もかなり整理されており、貴重な存在になっている。これは本部協会や学連も見習ってほしい。

さて、本誌編集部が35回にもわたって回顧的な記録集に二頁もの紙面をさいていたのは、斯界の記録保存、資料整理がゼロに近い状態であったからだ。

第10号から5回にわたって鷲尾武治氏（共同通信社）が戦前の大会の記録を掲載したところ好評を得、高嶋前理事長の「正しい資料と記録を収集するために」という意向で改めて第6回（本誌15号）から小生が担当してスタートを切ったものだ。

ところが始めてみると、自分の持っている資料やスクラップではとうてい満足できる内容にならない。正確な記録を聞こうにも本部協会には一切なく、『だからこそ苦労してもらってるんだよ……』と高嶋氏に云われる始末だった。

そのような危い橋を渡りながらどうにか、ここまで来られたのは諸君諸兄の御協力があったからにほかならない。

とりわけ馬場太郎、外山准二、栗脇巖、村田弘の各氏にはなにかというとお手をわずらわし、お忙しい時間をそのためにさいていただいたことが再三ではなかった。

また、戦前の日独対抗の件で、各所にわざわざ問い合わせまでして御返信くださった高橋満年氏の御厚意や、各大会関係者の御教示も忘れることができない。

改めてこの場から御礼申しあげます。

この連載を書いていたおかげで地方協会が独自に発行しているパンフレットを見る機会に恵れたのは嬉しい〃副産物〃だった。なかでも磯部浩氏からお贈りいただいた「茨城県ハンドボール史」（昭和32年11月刊）は、茨城協会と、そのプレイヤーたちの情熱が全頁ににじみ出ている好冊子であった。こうした地方協会の努力を知れば知るほど、本部協会の〃先輩の業績に対する敬意度の乏しさ〃がなさけなかった。

35回の連載で採りあげた資料は必ずしも充分ではなく、関西学生の初期、第6回国体（昭和26年・広島）は特に不備である。

第3回全日本総合女子（昭和35年・小松）の優勝メンバー（芙蓉ク）も今日までついに判らずじまい。残念である。こうした点を補正して〃続編〃を書く機会が是非欲しいと思っている。また、球史はなにも記録にかぎったことではなく、石井喜八氏から御助言をうけたような『戦法史』といったものも面白いと思う。

日々刻み築かれる情熱を、正しい資料として確実に保存するパートが本部協会内に一日も早く組織されるよう望んで、擱筆したい。なお、次のシーズン・オフからは藤本強氏の〃球史国際版〃ともいうべき原稿が誌上を飾ることになっている。（杉山）

優勝メンバー・訂正

第33回（本誌44号）に掲載した第3回全日本総合室内男子優勝・全芝浦工大のメンバー

今野邦彦
高森孝一
浜野邦治
近藤金博
中上逹生
稲生嘉宏
服記和記
宮原藤支男

を別表のように訂正。

地方協会告知板

清水正氏が委員長に

関東高体連役員

関東高体連ハンドボール部はこのほど各県代表委員会を開き、役員を次のように決めた。

【役員】

▽委員長　清水正（山梨）▽委員（各県代表）渡辺繁（栃木）、町田蔵雄（群馬）、高島耕義（茨城）、遠藤健次（埼玉）、永井勝雄（東京）、島田正士（東京）、三浦公（神奈川）、角田節（千葉）、小松進（山梨）▽監事徳永陸繁（東京）▽会計小松進＝兼任▽庶務　佐藤和彦　▽審判部　遠藤（責任者）、高橋隆、小林、永山、岡前、佐分、手島、清水　▽技術部　細井（責任者）、伊崎、高橋健、雨海、佐野、栗城、猪股、斎藤

なお、来年度の第14回関東高校選手権大会は8月10日から5日間群馬県富岡市で開かれる予定。

【42年度各県登録校数】

	男	女	計
栃木	9	6	15
群馬	7	6	13
茨城	21	15	36
埼玉	8	9	17
東京	49	25	74
神奈川	33	13	46
千葉	3	4	7
山梨	16	8	24
計	146	86	232

昨年度に比らべ約15%の増加

青森理事長に斎藤氏

青森協会はこのほど理事長に斎藤浩氏を新任したほか新年度役員を次のように決め発表した。

▽会長　鹿内一胤▽副会長　木村滋男、太田尚充、川島印太郎▽理事長　斎藤浩▽高体連専門部長　木村滋男（兼任）▽同委員長　長内和男

なお、事務局は県立青森商高（青森市合浦2丁目9の15）

石川県協会事務局変更

金沢市弥生町ネニ
金沢市立泉中学校内

ブロック高校選手権

全日本高校選手権の前哨戦――各ブロック高校選手権は7月末各地で熱戦譜をつづった。各大会の主要記録は次の通りである。なおこれで今年のブロック高校選手権は9月の東北、東海両大会を残すだけになった。

第13回関東高校

第13回関東高校選手権は7月21日から5日間千葉市に関東各県から男子32、女子32の多数が参加して行われた。男子は全国優勝をめざす明星をはじめ東京勢が実力を存分に発揮、1位から3位までを独占した。明星の優勝は5年連続7回目。女子はダークホースの深谷女（埼玉）が初優勝した。

▽男子準々決勝
神代 21—12 竜ケ崎一
明星 25—9 麻生
中大附 26—6 石岡一
浦和市立 15—9 足利工

▽同準決勝
明星 26—5 神代
中大附 22—13 浦和市立

▽同3位決定戦
神代 20—9 浦和市立

▽同決勝
明星 15（4—2、11—3）5 中大附

▽女子準々決勝
佼成学園 6—5 神代
深谷女 20—11 富岡
栃木女 14—3 第五商
熊谷商 12—10 国学院栃木

▽同準決勝
深谷女 9—5 佼成学園
熊谷商 5—5 栃木女
抽せんで熊谷商の勝ち

▽同3位決定戦
栃木女 18—1 佼成学園

▽同決勝
深谷女 7（2—2、5—4）6 熊谷商

第10回近畿高校

第10回近畿高校選手権は7月23、24の二日間京都市・伏見工球技場に近畿6県から男女それぞれ16校が参加して開かれた。男子は全日本高校出場組が上位に進み接戦となったが洛星（京都）が快勝、女子は混戦をうまく抜け出たダークホース・精華女子（京都）が住吉学園（大阪）、夙川学院（兵庫）らをおさえ、それぞれ初優勝した。

▼男子1回戦
伏見工（京都） 16—8 添上（奈良）
佐野工（大阪） 18—15 滝川（兵庫）
乙訓（京都） 19—15 県和歌山商（和歌山）
城東工（大阪） 18—16 八幡工（滋賀）
塔南（京都） 14—8 彦根東（滋賀）
桐蔭（和歌山） 18—7 東大寺学園（奈良）
高島（滋賀） 11—10 三国ヶ丘（大阪）
洛星（京都） 15—6 兵庫工（兵庫）

▽同準々決勝
佐野工 14—9 伏見工
乙訓 20—16 城東工
桐蔭 13—10 塔南
洛星 15—3 高島

▽同準決勝
佐野工 12（5—8、7—3）11 乙訓
洛星 12（8—4、4—7）11 桐蔭

▽同決勝
洛星 12（7—5、5—4）9 佐野工

▼女子1回戦
大谷（大阪） 6—4 守山女（滋賀）
十津川（奈良） 10—2 御坊商工（和歌山）
県尼崎（兵庫） 5—3 西京商（京都）
住吉学園（大阪） 8—4 高島（滋賀）
寝屋川（大阪） 5—4 貴和（和歌山）
精華女（京都） 7—2 八幡商（滋賀）
明徳商（京都） 5—4 生駒（奈良）
夙川学院（兵庫） 5—4 東大阪（大阪）

▽同準々決勝
大谷 15—7 十津川
住吉学園 5—2 県尼崎
精華女 8—1 寝屋川
夙川学院 7—6 明徳商

▽同準決勝
住吉学園 5（1—1、2—2……1—1、1—0）4 大谷
精華女 4（3—1、1—2）3 夙川学院

▽同決勝
精華女 4（3—1、1—2）3 住吉学院

第3回北信越高校

第3回北信越高校選手権は7月21・22日柏崎市・第一中グランドに北信越5県男女あわせて20校が集まり開かれた。男子は上田（長野）が2連勝、女子は小諸商（長野）が高岡女（富山）の3連勝をはばみ、長野勢が完勝した。

▼男子1回戦（2試合）
羽水（福井） 18—8 明訓（新潟）
若狭（福井） 27—15 小杉（富山）

▽同2回戦
金沢工大附（石川） 17—10 羽水
上田（長野） 19—12 県立工（石川）
氷見（富山） 14—13 屋代（長野）
若狭 14—12 柏崎工（新潟）

▽同準決勝
上田 15—7 金沢工大附
氷見 17—8 若狭

▽同決勝
上田 14（6—5、8—3）8 氷見

▼女子1回戦（2試合）
高志（福井） 9—6 羽咋（石川）
富山女（富山） 5—3 福井商（福井）

▽同2回戦
高岡女（富山） 10—5 高志
柏崎常盤（新潟） 10—4 上田城南（長野）
小諸商（長野） 13—0 明訓（新潟）
小松市女（石川） 7—3 富山女

▽同準決勝
高岡女 10—5 柏崎常盤
小諸商 9—5 小松市女

▽同決勝
小諸商 8（5—4、3—3）7 高岡女

第16回四国高校

第16回四国高校選手権は7月22・23日香川・高松一高で行われ、男女とも新居浜勢が優勝した。

▼男子準々決勝（1回戦）
高知中芸（高知） 18（11—2、7—5）7 東工（徳島）
松山北（愛媛） 21（14—2、7—4）6 香川（香川）
新居浜工（愛媛） 18（8—4、10—3）7 坂出工（香川）

追手前（高知）17（9－7　8－7）14 城北（徳島）
▽同準決勝
松山北 10（5－0　5－3）3 高知中芸
新居浜工 18（8－1　10－2）3 追手前
▽同3位決定戦
高知中芸 10（5－4　5－4）8 追手前
▽同決勝
新居浜工 14（5－4　9－1）5 松山北
▼女子準々決勝（1回戦）
新居浜西（愛媛）27（13－2　14－1）3 勝浦園芸（徳島）
三本松（香川）9（6－3　3－2）5 高知西（高知）
高岡（高知）7（2－1　5－2）3 香川（香川）
新居浜商（愛媛）22（10－1　12－0）1 池田（徳島）
▽同準決勝
新居浜西 19（10－0　9－6）6 高岡
新居浜商 13（4－2　9－2）4 三本松
▽同3位決定戦
三本松 10（3－1　7－1）2 高岡
▽同決勝
新居浜商 5（1－0　4－4）4 新居浜西

○……四国4県から男女の代表それぞれ8校が集まった。4県の勢揃いは永年の宿願だったけに何よりの〃収獲〃といえた。

技術的にも、各校のレベルが接近して来ている。喜ばしいことだ

男子は、各校ともまとまりのあるチームプレーを見せた。決勝は愛媛同士となり新居浜工が松山北を降した。初出場の城北（徳島）の健斗は賞讃に価する。

○……女子はあいかわらず愛媛勢が強く、他を圧倒したが、三本松（香川）をはじめ各校とも着実にその力を伸ばして来ている。今後が大いに楽しみである（川崎）

〔注〕第18回中国高校は本誌43号、第15回九州高校、第18回北海道は45号に既報。

各地の記録

寄稿歓迎

東北大が初優勝飾る

第11回国立8大学選手権は7月25日から3日間仙台で行われ、東北大が、6連勝を狙う京大、東海1位の名大などの有力校を連破して全勝、初優勝を飾った。

【順位】①東北大6戦全勝②京大5勝1敗③大阪大4勝2敗④名古屋大3勝3敗⑤神戸大2勝4敗⑥北海道大1勝5敗⑦東大6敗⑧九大棄権

福井大、富山大破る

第19回北陸三大学総合体育大会ハンドボール競技は7月9日福井で行われ、地元・福井大が北信越春季1位の富山大を破って優勝を飾った。

福井大 25（10－8　15－5）13 金沢大
富山大 26（17－5　9－12）17 金沢大
福井大 16（7－4　9－8）12 富山大
①福井大②富山大③金沢大

大阪市2回目の優勝

第18回五大都市大会7月8、9の両日名古屋・桜台高で開かれ大阪市が4年ぶり2回目の優勝をとげた。

▽リーグ戦（男子のみ）
名古屋市 40－12 京都市
大阪市 15－13 横浜市
神戸市 33－13 京都市
名古屋市 21－14 横浜市
大阪市 25－17 神戸市
横浜市 25－10 京都市
名古屋市 15－9 神戸市
大阪市 40－17 京都市
横浜市 25－6 神戸市
大阪市 12－7 名古屋市
①大阪市4戦全勝②名古屋市3勝1敗③横浜市④神戸市⑤京都市

大分東（女）辛くも勝つ

▼第15回大分高校総合体育大会ハンドボール競技（7月・鶴崎高）
▽男子決勝リーグ
大分東 20－12 国東農
大分商 16－13 鶴崎工
鶴崎工 43－9 国東農
大分商 18－6 大分東
大分商 44－8 国東農
鶴崎工 21－10 大分東
【順位】①大分商②鶴崎工③大分東④国東農
▽女子5・6位決定戦
玖珠農 13－4 国東農
▽同2・4佐決定戦
青山 7（3－3　4－2）5 大分商
▽同沢勝
大分東 6（4－2　2－2）4 臼杵

全日本高校各地予選・補

▽……京都府
▼男子準々決勝
乙訓 26－6 平安
伏見工 21－8 日吉丘
埒南 14－9 桃山
洛星 24－11 瑳峨野
▽同準決勝
伏見工 15－10 乙訓
洛星 16－4 塔南
▽同決勝
洛星 13－11 伏見工
▼女子準々決勝
明徳商 21－3 桃山
西京商 10－4 乙訓
洛東 8－7 京都女
精華 15－1 瑳峨野
▽同準決勝
明徳商 8－4 西京商
精華 7－4 洛東
▽同決勝
明徳商 5－4 精華

▽……大阪府
▼男子決勝リーグ
佐野工 9－7 大商
三国ヶ丘 11－8 城東工
佐野工 16－11 城東工
三国ヶ丘 7－6 大商
城東工 13－12 大商
佐野工 20－10 三国ヶ丘
【順位】①佐野工②三国ケ丘③城東工④大商
▼女子決勝リーグ
住吉学園 5（分）5 寝屋川
東大阪 16－2 鶴見商
住吉学園 14－2 鶴見商
寝屋川 3－2 東大阪
寝屋川 10－6 鶴見商
住吉学園 9－5 東大阪
【順位】①住吉学園②寝屋川③東大阪④鶴見商

▽……兵庫県
▼男子準々決勝
御影工 16－6 三田
県兵庫工 17－10 武庫工
滝川 19－9 柏原
鈴蘭台 15－12 県神戸商
▽同準決勝
県兵庫工 13－12 御影工
滝川 24－14 鈴蘭台
▽同決勝
滝川 17－12 県兵庫工
▼女子準々決勝
県神戸商 15－3 飾磨
県尼崎 13－4 鈴蘭台
夙川 15－4 佐用
甲子園 6－3 明石商
▽同準決勝
県尼崎 12－3 県神戸商
夙川 5－2 甲子園
▽同決勝
夙川 14－4 県尼崎

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第四十六号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可
昭和四十二年八月二十五日印刷
昭和四十二年九月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東 渋谷区神南町二五
電 (代表)(461)三二一一
振 五八三四八番
編集兼発行人 鈴木達雄
定価 百五十円